

令和7年9月5日

令和7年 第3回区づくり推進横浜市会議員会議 次第

日時：令和7年9月5日(金) 午前10時～

場所：都筑区役所5階特別会議室

1 議題

- (1) 令和6年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について
(資料1)
- (2) 令和7年度 都筑区自主企画事業の執行状況について (資料2)
- (3) 令和8年度 都筑区個性ある区づくり推進費 予算編成の考え方
について (案) (資料3)

2 報告事項

令和7年度のGREEN×EXPO 2027の機運醸成の取組について

令和7年第3回
区づくり推進横浜市会議員会議
会議資料

令和7年9月5日
都筑区

資料 1

令和 6 年度

都筑区個性ある区づくり推進費

決算状況について

令和 7 年 9 月 5 日
都筑区

目 次

令和6年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について	3
令和6年度 都筑区自主企画事業説明書	
施策1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち	
1 都筑区制30周年記念事業 新規	4
2 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業 新規・拡充	7
3 つづき健康づくりサポート事業 拡充	14
4 食と暮らしの安全推進事業	16
5 自治会町内会の地域運営応援事業	19
6 地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア） 拡充	20
7 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」推進事業	24
8 障害者交流啓発事業 新規	27
9 まちづくり総合調整事業	29
10 危機管理対策推進事業	31
11 災害にそなえる自助・共助の推進事業	33
12 安全・安心なまちづくり事業	37
13 広報・広聴事業	39
14 スムーズ区役所事業	40
施策2 活力とにぎわい、魅力あふれるまち	
15 横浜ビー・コルセアーズを活かしたホームタウン活動推進事業	42
16 文化とスポーツであふれるまちづくり推進事業	44
17 都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業	46
18 在住外国人支援・国際交流事業 拡充	48
19 メイドインつづき推進事業	50
施策3 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち	
20 環境にやさしいまち推進事業	52
21 みんなで花と緑のまちづくり事業 拡充	54

令和6年度 都筑区個性ある区づくり推進費 決算状況について

＜個性ある区づくり推進費総括表＞

(単位 : 円)

区分	予算額 (A)	予算現額 (B)	決算額 (C)	差引 (B-C)
1 自主企画事業費	100,237,000	100,237,000	98,533,550	1,703,450
2 統合事務事業費	38,973,000	38,973,000	35,861,492	3,111,508
	(1) 統合事務費	20,889,000	20,889,000	18,688,796
3 区庁舎・区民利用施設管理費	(2) 統合事業費	18,084,000	18,084,000	17,172,696
	704,548,000	707,272,000	712,075,455	△ 4,803,455
合 計	843,758,000	846,482,000	846,470,497	11,503

＜内訳＞

1 自主企画事業費

施策の柱	予算額 (A)	予算現額 (B)	決算額 (C)	差引 (B-C)
(1) 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち	77,285,000	77,285,000	78,747,792	△ 1,462,792
(2) 活力とぎわい、魅力あふれるまち	17,951,000	17,951,000	15,515,484	2,435,516
(3) 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち	5,001,000	5,001,000	4,270,274	730,726
合 計	100,237,000	100,237,000	98,533,550	1,703,450

2 (2) 統合事業費

区分	予算額 (A)	予算現額 (B)	決算額 (C)	差引 (B-C)
広報よこはま発行事業	10,009,000	10,009,000	9,166,147	842,853
市民相談事業	1,538,000	1,538,000	1,513,944	24,056
クリーンタウン横浜事業	1,330,000	1,330,000	1,359,173	△ 29,173
消費生活推進員活動事業	245,000	245,000	203,000	42,000
緊急時情報システム運用事業	433,000	433,000	425,932	7,068
スポーツ推進委員支援費	1,311,000	1,311,000	1,311,000	0
青少年指導員事業	1,698,000	1,698,000	1,763,500	△ 65,500
学校・家庭・地域連携推進事業	1,520,000	1,520,000	1,430,000	90,000
合 計	18,084,000	18,084,000	17,172,696	911,304

3 区庁舎・区民利用施設管理費

区分	予算額 (A)	予算現額 (B)	決算額 (C)	差引 (B-C)
区庁舎等管理費（光熱水費含む）	242,333,000	242,333,000	254,258,687	△ 11,925,687
区版市民活動支援センター	931,000	931,000	768,846	162,154
土木事務所管理費（光熱水費含む）	7,070,000	7,070,000	6,829,585	240,415
地区センター等管理費	186,838,000	187,813,000	189,173,702	△ 1,360,702
ログハウス管理費	9,443,000	9,618,000	9,618,000	0
公会堂管理費（光熱水費含む）	36,731,000	36,731,000	35,522,989	1,208,011
老人福祉センター等管理費	110,823,000	112,078,000	112,076,135	1,865
コミュニティハウス管理費	53,350,000	53,511,000	49,288,000	4,223,000
区スポーツセンター管理費	43,880,000	44,038,000	44,038,000	0
都筑多文化・青少年交流プラザ管理費	8,369,000	8,369,000	8,369,000	0
その他（広場・遊び場）	280,000	280,000	331,232	△ 51,232
区庁舎・区民利用施設修繕費	4,500,000	4,500,000	1,801,279	2,698,721
合 計	704,548,000	707,272,000	712,075,455	△ 4,803,455

施策1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

1 都筑区制30周年記念事業 <small>新規</small>	R6予算額	R6決算額	差引
	887万5千円	1,111万4千円	△223万9千円

1 都筑区制30周年記念式典

区制30周年を記念し、都筑区のまちづくりに尽力された区民への感謝の機会として式典を開催しました。

式典は二部制で行い、第一部では区民栄誉賞等の表彰式や感謝状の贈呈式を、第二部では、劇団かかし座による多世代の人が楽しめる公演を行い、区の発展に多大なご貢献をされた方々に感謝を伝えるとともに、多くの区民の皆様と区制30周年をお祝いすることができました。(11月9日)



《記念式典の様子》



《被表彰者の皆様》



《会場内の様子》



《劇団かかし座による公演の様子》

2 都筑区制30周年記念 つづきてくてくスタンプラリー

都筑区ならではの公園・緑道を巡り、自然あふれる魅力を再発見するスタンプラリーを開催しました。参加者のスマートフォンを活用したデジタルスタンプラリーとし、手軽に参加できるようにした他、企業協賛により様々な景品を用意し、楽しくご参加いただくことができました。

(11月1日～11月30日 参加者数 427人)

*参加者の声：

「スタンプラリーをきっかけに、これまで行ったことのない公園などを知ることができて楽しかった」「緑道をゆっくり歩いてみて、自然を感じとても良い体験ができた」等の声をいただきました。



3 都筑区制 30 周年を契機とした子どもたちが学ぶ伝統芸能ワークショップ

地域に根づく伝統文化の共有と次世代への継承という観点から、和楽器（箏・小鼓・琵琶・口琴）体験と本格的な演奏の鑑賞ができるワークショップを都筑区在住・在学の小・中学生を対象に横浜市歴史博物館で開催し、子どもが伝統芸能に親しむことができる機会を創出しました。（9月 23 日 参加者数 69 人）

*参加者の声：

ワークショップに参加した子どもたちからは、「色々な和楽器に親しむことができた。音を出すのは難しかったが、きれいな音色が出て楽しかった」等の声をいただきました。



《ワークショップの様子》

4 都筑区制 30 周年記念 キッズスタンプラリー

都筑区内の子育て支援関連施設（都筑区子育て支援センターPopola、市立保育所、民間保育所の子育て広場、親と子のつどいの広場、地域の子育てサロン等）を巡るスタンプラリーを実施しました。

スタンプラリーをきっかけとして区内に多数ある施設を知って、利用いただくことで、地域で安心して子育てができる環境の醸成につなげました。

（10月 26 日～11月 30 日、参加者数：約 4,000 人）

*参加者の声：

「このような取り組みがあると支援センターに行く良いきっかけになる」「子どもが、スタンプ押しに行く！と楽しそうにしていた」等の声をいただきました。



5 都筑区制 30 周年記念特設サイトの運用及び SNS を活用した投稿キャンペーンの開催

令和 6 年 1 月に開設した「都筑区制 30 周年記念特設サイト」の運用を行うとともに、都筑区での日常、都筑区につながること（区内の施設やスポット、イベント等）などについて、ハッシュタグ「#my つづき」をつけて投稿していただく「my つづき Instagram キャンペーン」を開催し、区民参加型による都筑区の新たな魅力の発信を行いました。

（7月 26 日～12月 31 日、参加者数：2,271 名）

*キャンペーン当選者を対象としたアンケートの結果：

約 94% が「このキャンペーンを通じて初めて知った都筑区の魅力があった」と回答。（n=277）



《キャンペーンロゴ》

6 都筑区制 30 周年記念給食における記念品の配付（若手職員による庁内プロジェクト）

都筑野菜を使用した区制 30 周年記念給食「つづきあいちゃんカレー」の実施とあわせて、若手職員による庁内プロジェクトが考案したオリジナルデザインの給食袋を区内市立小学校全校児童に記念品として配付し、地産地消の推進及び「都筑愛」の醸成を図りました。周年記念ロゴマークと野菜をあしらったオリジナルデザインの給食袋を受け取った児童の皆様に笑顔が見られました。（11～12 月、配付数：12,481 個）



《記念給食》



《オリジナル給食袋》

7 都筑区制 30 周年啓発グッズ等の作成

区制 30 周年を記念して、書家の金澤翔子さんに提供いただいた「都筑愛」の書を活用したグッズ（ステッカー、手ぬぐい、エコバッグ、栞）や、手で持てるサイズの「彩（いろどり）のガーランド」等の啓発グッズを作成し、区制 30 周年の周知及び機運の醸成を図りました。



《都筑愛グッズ》



《ガーランドを掲示した様子》



《30 周年記念グッズ》

主な増減

多様な周年記念グッズを製作したことによる消耗品費及び委託料の増

2 妊娠期から学齢期までの切れ目のない 子育て支援事業 新規・拡充	R6 予算額	R6 決算額	差引
	1,422万5千円	1,353万3千円	69万2千円

1 夫婦で子育て応援事業

就労をしている妊婦やパートナーが参加しやすいように、休日開催の両親教室を地域子育て支援センターPopola（以下「ポポラ」）及びポポラサテライトで実施しました。

また、区民意識調査の結果からも、多くの人が身近な場所での子育て支援を求めていることが分かっており、妊娠期から地域資源につながるきっかけの一つとして、区内地域ケアプラザにおいても新たに両親教室を開催しました。

- ・ポポラ：毎月第4土曜日、年12回 参加人数延べ133組
- ・ポポラサテライト：毎月第2土曜日、年12回 参加人数延べ108組
- ・地域ケアプラザ：全6か所で年2回ずつ開催 参加人数延べ57組



ポポラサテライト会場



《休日両親教室の様子》 地域ケアプラザ会場

*アンケートの結果：

妊娠中の過ごし方・出産の準備やお産・赤ちゃんのこと・産後のこと・沐浴体験・子育て支援情報の全ての項目において、95%以上の方が「わかりやすかった」と回答

*参加者の声：

「実際に話を聞き、沐浴等体験することで、より育児に向けてイメージがついて分かりやすかった。」「土曜日開催のため、夫婦で参加でき良かった。」「日程や会場が選べて良かった」「相談する窓口や場所を知ることができた。」等の声をいただきました。

2 0歳児地域育児教室（赤ちゃん会）

転入者が多い都筑区の子育て世代からのニーズを踏まえ、赤ちゃん会の対象を第1子に加え第2子以降にも拡大して、引き続き仲間づくりや育児相談を行う機会を提供しました。

- ・18会場 198回（8月を除く毎月実施） 参加人数延べ3,514人



《赤ちゃん会の様子》

*参加者の声：

「スタッフや他のママさん達にわからない事や不安に思う事を聞けたり、子どもと一緒に遊んだり他のお友達と接したりでき、参加して良かった。」、また第2子以降の参加者からは「赤ちゃん会に参加できるようになり、知り合いもできて良かった」等の声をいただきました。

3 子育てネットワーク事業

地域の子育て支援の充実を図るため、保育園や親と子のつどいの広場などの関係機関との情報交換を行うほか、主任児童委員やこんにちは赤ちゃん訪問員など広く子育て支援に関わる方が参加する交流会を行いました。

- ・子育てネットワーク会議：第1回5月31日 参加人数24人

第2回2月14日 参加人数26人

- ・子育てネットワーク交流会：12月2日 参加人数93人

「私たちの街の防災を考える～地域子育て支援の視点から～」

講師：横浜国立大学院都市イノベーション研究院 稲垣 景子准教授



《子育てネットワーク交流会の様子》

*アンケートの結果：

- ・今回のテーマ（私たちの街の防災を考える）について「よかったです」と回答した方の割合 97.4%

- ・「交流会に参加し参加者間の交流が図られたと思う」と回答した方の割合 98.7%

*参加者の声

「都筑区で子育て支援に関わる様々な方々と交流できるこのような機会はとても貴重で、今後も参加させていただきたい。」「普段から地域のつながりが大切だと改めて感じました。」等の声をいただきました。

4 育児不安を抱える養育者への支援

育児不安を抱える養育者を対象に、電話や訪問等で継続的な支援を行うとともに必要に応じて心理士が個別の相談に対応しました。また、2歳児のイヤイヤ期への対応について学ぶ「2歳児講座」を開催しました。さらに、1歳6か月健診において発達状況への課題を指摘され、2歳になるまでの間に不安を抱える養育者が多いことから、発達に不安を抱える2歳前の子と親を対象に、親子で参加し心理士のアドバイスを受けられる遊びの教室「たんぽぽクラブ」を開催しました。

・2歳児講座

第1回 4月23日 参加人数 13人、 第2回 8月7日 参加人数 14人

第3回 10月30日 参加人数 21人、 第4回 2月26日 参加人数 24人

*アンケートの結果：

子育ての不安や悩みが軽減したと回答した方の割合が 98.5%

*参加者の声：

「子どもとの関わり方を具体的に教えていただき参考になった。」「同じ悩みを持つママさんとお話しでき、嬉しく貴重な時間だった。」「互いに話すことで子育ての孤独な気持ちが少し楽になった。」等の声をいただきました。

・たんぽぽクラブ

月1回（5月・11月を除く毎月実施、9月は台風の為中止） 参加人数延べ 77組

*参加者の声：

「具体的な遊び方を教えていただけて良かったです。家でも実践してみたいです。」「様々な悩みをかかえたお母さん方と共有出来て良かったです。」等の声をいただきました。

5 区民による子育て情報冊子の作成（つづきチルコロMAP）

区民から寄せられた外遊びや公園、子育て支援に関する情報等を掲載した冊子（つづきチルコロMAP）をポポラと協働して更新し、発行しました（9,000部）。



6 乳幼児健診受診サポート事業

乳幼児健診において新たに保育ボランティアを配置し、妊娠中の方のサポートや同行したきょうだい児の見守り等を行うことにより、保護者の負担軽減につながり、誰もが受診しやすい環境づくりを進めました。

- ・見守りスペースの利用 19組
- ・付き添い対応 164組



《見守りの様子》



《付き添いの様子》

*アンケートの結果：

アンケートに回答した、見守りスペース利用者の100%が「満足」と回答。「利用できて助かった。」「次も利用したい。」等の感想をいただきました。

7 身近な拠点における多世代交流推進事業

都筑区は子育て世代の転入が多く、区民意識調査の結果からも、身近な場所での子育て支援が求められています。子どもを連れて出かけやすい、地域ケアプラザ等で多世代交流を始めとする取組を行うことで、子育て世帯が地域の人と知り合い、地域とのつながりが築ける支援を進めました。

また、地域ケアプラザ等における多世代交流の参加者に、子育てサポートシステムの周知と説明会の案内を行うことで、制度の認知度を上げ、提供会員のさらなる増加につなげました。

- ・身近な拠点における多世代交流事業3回実施（参加組数17組）



《親と子のつどいの広場での多世代交流



《子育てサポートシステム

*アンケートの結果：

の様子》

を利用した送迎の様子》

参加した保護者から「普段できないことができて、気分転換になった。」「これまで地域の人と話す機会がなかったので、楽しかった。」等の声をいただきました。

8 おひさま広場（園庭開放）

市立保育所が、子育て中の保護者にとって地域の身近な子育て支援機関となるよう、園庭開放を行いました。子育て経験のある保育協力者を配置して見守りがある中で、季節の遊びを取り入れながら子どもを安全に遊ばせるとともに、保護者の育児相談等を行いました。

- ・おひさま広場：週 5 日（月～金曜日） 市立保育所 4 園
4 園計 918 回実施、参加者延べ 8,262 人
- ・おひさままつり：5 月 17 日 みどり保育園 参加 38 組 76 人
5 月 24 日 茅ヶ崎南保育園 参加 35 組 77 人
10 月 23 日 大熊保育園 参加 25 組 55 人
10 月 24 日 中川西保育園 参加 11 組 23 人



《おひさま広場の様子》



《おひさままつりの様子》

*参加者の声：

「子どもが外へ飛び出す心配がなく、安全な場所で遊べます。」「保育士さんが他の保護者との橋渡しや育児相談にものってくれるので心強いです。」等の声をいただきました。

9 積木交流（つみきのつづき）

都筑区では、「つみきのつづき」をキャッチフレーズとして、市立保育所に合計 2 万個の積木を用意して積木遊びに力を入れています。積木遊びを地域の子育て世帯や民間保育・教育施設に広め、積木と親しんでいただけるように、地域の親子向けの育児講座や施設への積木の貸出、公開保育等を行い、子どもたちに豊かな体験を提供しました。

- ・積木であそぼう！ 令和 7 年 1 月 24 日（ノースポート・モール） 参加 17 組 34 人
- ・積木であそぼう！～公民合同育児講座～ 令和 7 年 1 月 25 日（区役所 6 階会議室） 参加 75 組 208 人



《区役所での「積木であそぼう！」の様子》

* 参加者の声 :

「色々な保育士さんが様子を見てくれたり、遊び方を教えてくれてより楽しめました。」「親も子も大いに楽しめました。こんなにたくさんの積木を初めて触れて子どもも大興奮でした。」等の声をいただきました。

10 潜在保育士の保育士体験

将来的な保育士確保を目的として、保育士資格を持っていても現在は働いていない方や将来保育士資格を取得して働きたいと考えている方を対象に、市立保育所で保育士体験を行いました（9月～令和7年2月）。

- ・参加8人 そのうち、保育者としての採用4人（保育士2人、保育補助2人）



《保育士体験実施チラシ》

11 地域が支える子ども達の居場所づくり事業

様々な課題を抱えた小中学生を対象に、生活習慣や学習習慣を身に付けられるきっかけとなるよう、地域の協力を得て、居場所づくり事業を実施しました。また、送迎の必要がある児童等の支援を行いました。(南部方面で実施、原則毎週火曜日)

- ・参加人数延べ139人

12 学齢期の子どもや保護者への支援

小学校入学を控え、学校生活やPTA、放課後の預け先等に不安を感じる、いわゆる「小1の壁」に直面する保護者も多くいます。こうした不安の軽減につながるよう、未就学児のいる保護者を対象とした講演会（動画配信を含む）や、子どもが同じ小学校に通う予定の保護者や先輩保護者との情報交換会を各小学校PTA等の協力のもと開催し、インターネット等では収集しづらいリアルな情報を提供しました。

- ・「小学校入学前に知っておきたい大切なこと～今から備える「小1の壁」～」(講演会及び情報交換会)：9月14日
 - ・講師：小栗 ショウコ 氏 (認定NPO法人あっとほーむ 代表理事)



※アンケートの結果：

不安が軽減したと回答した方の割合が 82%

※参加者の声：

「小学校入学してからの生活が想像できました。」「インターネット上ではわからない情報も知ることができ、安心感を得ました。」等の声をいただきました。

主な増減

夫婦で子育て応援事業におけるリーフレットデザイン委託料の減

3 つづき健康づくりサポート事業 拡充	R6 予算額	R6 決算額	差引
	203 万 9 千円	188 万 1 千円	15 万 8 千円

1 働く世代の健康推進事業

市民意識調査でバランスよく食べている区民の割合が減ってきていた結果がでたことから、健康的な生活習慣を身に着けていただくため、働く世代をターゲットに職場等を通じて、健康づくりの支援を進めました。

『横浜健康経営認証の取得支援』

- ・健康経営合同説明会の開催：6月 24 日

『健康づくりネットワーク連絡会の開催』

- ・第1回：7月 30 日

- ・第2回：1月 14 日

『ツヅキベジタブルチャレンジの実施』

- ・区内コンビニエンスストア（ローソン）におけるPOP啓発（9月1日～30日）
- ・YouTube広告の掲載（9月1日～30日）
- ・地域情報サイト「レアリア」への記事掲載（9月）
- ・横浜ビー・コルセアーズ都筑区応援DAYにおける啓発（11月10日）

*参加者の声：

「意識して野菜を食べているつもりでも、足りていないことが分かった。」、「野菜不足を認識した。今後はプラス1品を心がけたい。」等の声をいただきました。



『コンビニエンスストアPOP』



『横浜ビー・コルセアーズ都筑区応援DAYにおける啓発』

2 がん予防啓発事業

区民ががんの早期発見・早期治療ができるよう、乳幼児健診や地域のイベント等でがんに関する知識や検診の必要性に関する啓発を行いました。あわせて健康づくりネットワーク連絡会と連携してがん検診の普及啓発をしました。

- ・3歳児健診保護者に対する乳がん検診普及啓発
：8回実施、乳がん自己触診体験者数 347 人
- ・ピンクリボンキャンペーン
：10月5日 ららぽーと横浜
- ・広報よこはま（11月号区版）での乳がん特集記事掲載



『乳がん自己触診体験の様子』



『ピンクリボンキャンペーン』
みんなでサムシングピンク

3 こどものお口の健康事業

乳幼児のむし歯予防に関する知識を普及するため、歯みがきの方法やむし歯予防の知識や手法を伝える教室を毎月区役所で実施するとともに、地域会場でも開催しました。

また、上手に噛めない、飲み込めないなどの口腔機能発達不全について早期発見・対応ができるよう、保育園や学校等の関係機関・団体等への情報提供に加え、市ホームページ等を活用して保護者にも啓発を行いました。

- ・はじめての歯みがき教室
：18回実施、参加組数 103組
- ・口腔機能発達に関するホームページの公開：3月



《はじめての歯みがき教室の様子》

4 こどもの食育推進事業

子どもの食生活に関する不安を軽減し、安心して育児ができるよう地区センターや地域ケアプラザなどの地域会場で食事相談を実施しました。また、子どもの成長に応じた離乳食が進められるよう離乳食講座を開催しました。

さらに、子どもの健全な食生活を啓発するため、小中学校・保育園等と連携し、情報交換会や研修を実施しました。

- ・子育て支援者会場等における相談
：食事相談 11回実施、70組・歯科相談 11回実施、61組
- ・カミカミ・パクパク離乳食講座：4回実施、40組
- ・第1回食育情報交換会：7月 12日 参加人数 37人
- ・第2回食育情報交換会：1月 17日 参加人数 21人
- ・はじめての離乳食：12回実施、142組

*参加者の声：

「実際に様々な食材を調理してみることができてよかったです。」「手軽なやり方が参考になり、始めるハードルが下がった。実物でかたさを確認できてよかったです。」「これから離乳食を始める不安が解消できた。」等の声をいただきました。

5 地域の健康づくり応援事業

高齢者の健康づくりのため、区民向けのフレイル*予防講座を開催しました。（12月9日区民ホール）また、地域の健康づくり活動の充実を図るため、保健活動推進員と食生活等改善推進員の地区活動の連携を促進しました。

*フレイル：高齢期に体力や気力、認知機能など、からだとこころの機能（はたらき）が低下し、将来介護が必要になる危険性が高くなっている状態



《保健活動推進員と食生活等改善推進員の合同イベントの様子》

主な増減

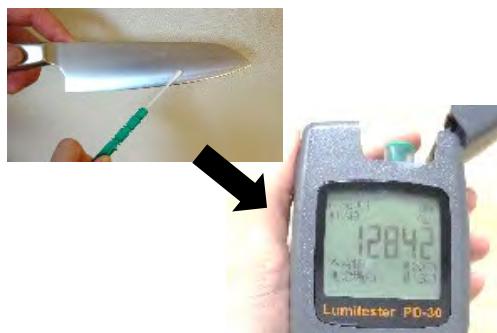
がん予防啓発事業におけるピンクリボンキャンペーンの実施について、会場を無償で借りられたことによる会場使用料の減

4 食と暮らしの安全推進事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	65万6千円	56万1千円	9万5千円

1 食の安全確保事業

(1) 大規模商業施設や大量調理施設への監視指導の実施

都筑区には大規模商業施設内の飲食店や大量調理施設が多く、食中毒が発生した時に被害が大きくなるリスクがあります。定期的な監視にあわせて、調理器具等の洗浄度を数値化できる機器を用いながら助言を行い、自主衛生管理の推進を促しました。



《洗浄度を数値化できる機器》



《監視指導の様子》

(2) 地域活動の担い手等への検査機器を用いた食品衛生に関する啓発

高齢者の見守りを目的とした配食サービスやこども食堂などのボランティアで食事を提供する団体に対し、衛生教育のためのツール（簡易的な微生物検査ができる培地）を用いて微生物を可視化することにより、わかりやすい啓発を行いました。

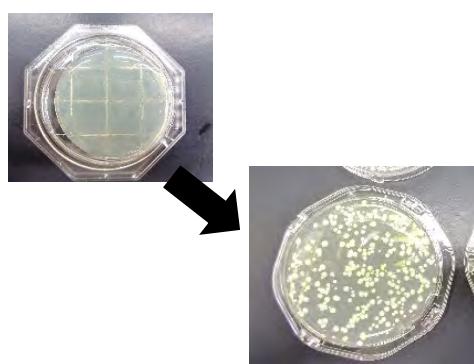
6月～9月 社会福祉協議会関係ボランティア団体等への周知

10月 16日 講習会実施

通年 出前講座（地区民生委員児童委員協議会等）

*参加者アンケートの結果：

「食中毒の対策について知ることができた」「講習会の前後で手洗いに対する考え方があわった」といった食中毒予防の意識向上につながりました。また、今後知りたいテーマの中には「食品工場の品質管理担当による講義」といった行政以外の視点の要望もみられました。



《微生物を可視化して衛生教育を行うための簡易培地》 《啓発講習会の様子》

都筑区食品衛生協会と協力して行う食中毒予防キャンペーンや、区民ホールでのパネル展、広報よこはまに記事を掲載するなどの方法により、食中毒予防啓発を行いました。

食中毒予防キャンペーン：7月31日 モザイクモール港北（正面入口横・4階広場）

来場人数 300人

食中毒予防パネル展：8月5日～13日 区民ホール（区役所1階）



《6年度 食中毒予防キャンペーン》



《6年度 食中毒予防パネル展》

*上記イベントで区民に実施した「食の安全に関するアンケート」の結果：(回答数226人) 食の安全に関し保健所に最も期待する業務として、「飲食店や食品製造施設の監視指導」(120人) や、「食品衛生に関する情報提供」(50人) が挙げられていました。

*展示パネルの内容に沿った質問を設けた結果：

「生や加熱不十分の鶏肉を喫食しない」「生野菜はよく洗浄してから 喫食する」「低温調理において十分に加熱するのには時間を要する」のいずれの項目でも約8割の方が食中毒予防につながる行動を選択し、知識を有していることがわかりました。一方で、それ以外の選択をした層もいることから、引き続き食中毒予防の啓発を工夫して行う必要性を認識しました。

2 暮らしの衛生確保事業

区民生活における猫・ねずみ・ハチの被害に対する支援として、被害防止器具の貸出しなどを行いました。

- ・猫侵入防止器貸出：11件
- ・ハチの巣駆除機器の貸出：11件

3 動物適正飼育推進事業

人と動物が共に快適に暮らせる環境づくりを目指し、動物愛護及び適正飼育の推進を図りました。動物愛護週間では長寿ペット表彰、飼い主セミナー、区制 30 周年記念として最長寿ペット表彰式を実施しました。また、区民まつり等において、ペットの飼育マナー及び適正な飼育などに関する啓発をしました。

動物愛護週間：9月 20 日～26 日

- ・区民ホールにて、ペット防災用品等や長寿ペット表彰パネル展示：9月 20 日～26 日
- ・愛犬の「吠え」で悩んでいる飼い主向けのドッグトレーナーによるセミナーの開催：9月 25 日（参加者 10 人）



《長寿ペット表彰パネル展示》



《最長寿ペット表彰式》

主な増減	前年度購入品の在庫の活用による減
------	------------------

5 自治会町内会の地域運営応援事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	372万3千円	301万7千円	70万6千円

1 自治会町内会加入促進

地域のつながりづくりのため、5年度区連会で作成した自治会町内会魅力発信動画を地下鉄内で10月28日から11月3日まで放映、10月4日にららぽーと横浜内で自治会町内会のパネル展の実施、自治会町内会活動紹介冊子の改訂版の発行等、区連会等と連携しながら自治会町内会への加入促進を行いました。



«自治会町内会魅力発信動画»



«30周年事業として「ららぽーと横浜」で実施した区連会と連携した加入促進キャンペーン»

*ららぽーと横浜 アンケートの結果：

参加者：128人

質問項目：自治会町内会活動を知っていますか？（該当する項目にシールを貼付）

	知ってる	知らない	計
	人数	人数	
お祭りや運動会	118	8	126
見守り、防犯活動	101	26	127
清掃・美化活動	114	14	128
災害に備える	104	24	128
回覧板、掲示板	112	16	128

2 自治会町内会への情報提供

区連会定例会資料を、毎月（8月と12月を除く）、各自治会町内会あてに配達し、区連会ホームページに掲載しました。

3 自治会町内会長感謝会

自治会町内会長感謝会を開催し、永年にわたり尽力された会長へ感謝状を贈呈するとともに各自治会町内会長へ、感謝の意を表しました。（3月3日（月））

主な増減	自治会加入促進事業について、在庫活用による印刷製本費の減
------	------------------------------

6 地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア） 拡充	R6 予算額	R6 決算額	差引
	409万9千円	255万6千円	154万3千円

1 区民活動センター運営事業

（1）活動団体情報のデジタル化と広報の強化

区民の自主的な地域活動を支援し、地域活動に関心を持つ人が必要な情報を得やすい環境をつくるため、ボランティア募集やイベントに関する情報をスマートフォン等で簡単に取得できる仕組みを検討しました。（市民局、デジタル統括本部及び青葉区と連携）

また、区内で活動している市民活動の紹介や、区民活動センターに登録しているボランティア人材バンクの情報の充実を図るとともに、都筑区民活動センター公式LINEやX、Facebookなどを活用し、SNSによる情報発信の強化を行いました。



《都筑区民活動センター公式LINE》

（2）講座・イベント・成果報告会の企画・運営

地域活動のきっかけづくりや地域で活動する団体同士のつながりづくりを目的に、年間を通じて様々な講座やイベント、交流会を実施します。実施にあたり、区民利用施設や市民団体及び地域活動に関心を持つ区民と協働で企画運営に取り組むことで、地域と連携した地域活動の促進を図りました。

さらに、市民活動団体やボランティアを自治会町内会につなげるため、情報提供や相談対応など自治会町内会支援の強化を図りました。

- ・地域活動のきっかけづくりや情報交換の場「交流サロン」（毎月開催）
- ・地域活動の担い手づくり講座「大人の部活動」（7月～9月・全6回）
- ・地域活動を情報発信する市民ライター養成講座（5月～9月・全6回）
- ・地域活動団体のスキルアップ講座「縁（えん） ジンミーティング」

第1回：8月19日、参加人数：12人

第2回：令和7年1月20日、参加人数：20人

- ・地域活動の活動発表、交流会「つづき人（びと）交流フェスタ」

令和7年2月27日～3月2日

出展数：パネル展51団体、ワークショップ22団体、交流会90人



《6年度つづき人交流フェスタの様子》

(3) 自治会町内会支援の強化

市民活動団体やボランティア人材を自治会町内会につなげるため、情報提供や相談対応など自治会町内会支援の強化を図りました。

また、「自治会町内会の新しい運営スタイル推進事業」と連携し、相互の広報媒体による発信力強化や、地域で活動しているボランティアの紹介などを通じて、自治会町内会が多様な活動団体と連携できる場づくりを支援しました。



《ボランティア人材を紹介している様子》

2 子どものボランティア体験事業

夏休み期間を利用して、中・高校生がボランティア活動を体験し、日ごろ関わる機会が少ない年代や地域の方々と交流し、体験を通じて学ぶ「はあと de ボランティア～中高生のための夏休みボランティア体験～」及び小学校5・6年生向けの「はあと de ボランティア プレコース」を実施しました。

つづきMYプラザや青少年指導員が中心となり、施設や団体と連携して子どもと地域をつなぐことによって、地域で活動する大人にとっても、子どもと関わり新たな気づきの場となることを目指しました。

また、同事業の発展形として、中・高校生が1年を通して活動し来夏の体験事業を企画する「STEP UP プログラム」(局予算事業)を支援しました。

- ・オリエンテーション：7月19日～23日、全7回、つづきMYプラザ、区役所等
- ・ボランティア体験：7月25日～8月23日

中高生コース…91プログラム（参加者275人）

小学5・6年生プレコース…51プログラム（参加者96人）

- ・振り返り・修了証授与：8月24日、都筑区役所

*振り返りアンケートの結果：

「自分の行動を見直し、そして実践しようと思えた」「どんなに小さなことでも、その積み重ねで世界は良くなると感じることができた」などの意見があり、イベントを通じて青少年の意識の変化を促し、成長のきっかけづくりにつなげることができました。



《オリエンテーション》



《竹林整備》



《センター南駅周辺の清掃》



《修了証授与》

3 読書活動推進事業

区民の読書活動を推進するために、都筑図書館と連携し、区内の各施設で読書をテーマにした、おはなし会、講演会及び展示会などを実施しました。

- ・おでかけ図書館：図書館と連携して区内施設に出向いて行う読書活動（通年）
- ・つづきブックフェスタ：市民団体、図書館と協働で実施する読書イベント

11月29日～11月30日

- ・読書懇談会：令和7年3月16日、参加人数：48人



《おでかけ図書館（ららぽーと横浜の様子）》



《つづきブックフェスタ》

主な増減	区民活動センター運営事業の一つとして予定していた「活動団体情報のデジタル化」の取組が、市民局予算での事業執行（よこむすび）になったことに伴う委託料の減。
------	--

7 都筑区地域福祉保健計画 「つづき あい」推進事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	68万6千円	57万9千円	10万7千円

1 地区別計画推進会議等への支援

(1) 第4期計画推進及び第5期計画策定に向けて、地域住民による課題共有・解決の体制を促進するため、地区別計画推進会議等の取組を支援しました。

地域懇談会開催地区数：10 地区



《地域懇談会の様子》

(2) 地域での取組に対して、「つづき あい基金」を通じて支援を行いました。

申請受付期間 前期：6月3日～7月19日、後期：10月10日～11月22日

「つづき あい基金」助成団体：4件3団体



《基金を活用し地域において作成された広報誌や啓発物品》

2 地域福祉保健推進に携わる職員を対象とした研修

庁内及び関係機関の連携強化を図りつつ地域支援を行えるよう、地域支援に関わる区や関係機関の職員を対象とした研修を実施しました。

(職員向け計画説明会：6月26日、保健師及び社会福祉職合同研修1月27日)

3 都筑区地域福祉保健計画推進委員会等の運営

計画の進捗状況や課題等について報告、意見交換し、今後の計画推進や次期計画検討の参考とするため、学識経験者や各種団体の代表者等からなる都筑区地域福祉保健計画推進委員会を開催しました。(12月)



《推進委員会の様子》

《主な参加者》

- ・自治会町内会、社会福祉協議会関係者
 - ・子育て、青少年支援団体、学校関係者
 - ・障害児者支援団体等関係者
 - ・多文化共生支援団体関係者
 - ・地域活動者（委嘱委員含む）
 - ・医療関係者
 - ・大学教授 等

4 地域福祉保健の啓発・発信

多くの区民が集まるイベントや地域のサロン等への参加や、広報よこはまやSNSを活用した発信などを通じて、若年層や子育て世代を含めた幅広い層に地域福祉保健の啓発を行いました。また、テーマ型の活動を含めた地域の様々な活動の状況を把握し、地域福祉保健の課題を共有しながら、解決に向けた取組を進めました。



《11月区民まつりの様子（みんなでいちゃんをつくろう）》



《1月のパネル展の様子》



《庄報上ニ付属都筑区版 3月号》



«地域活動の取組例：移動販売(茅ヶ崎南 MGCRS 地区・都田地区)»

主な増減

地域福祉保健推進に携わる職員を対象とした研修において、職員が研修の講師をしたことによる報償費の減

8 障害者交流啓発事業 新規	R6 予算額	R6 決算額	差引
	106万7千円	76万5千円	30万2千円

1 福祉農園事業

障害児・者の方が参加する芋の収穫体験を実施しました。(10月20日)

12月の障害者週間にあわせて、区民ホールで障害当事者や障害者福祉事業所等の関係機関と協働により、「障害者と地域の共生フェスタ」を開催しました。障害福祉事業所のパネル展示に加え、区制30周年を記念し、書家 金澤翔子さんに揮毫していただいた書「都筑愛」の展示や、書をモチーフとしたステッカーの配布を行いました。(12月3日～7日)



《障害者と地域の共生フェスタの様子》

* 「障害者と地域の共生フェスタ」来場者アンケートの結果：

「障害や障害のある人に理解と関心を深めたいと思いますか」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した方の割合は90.8% (回答者数 207名)

* 来場者の声：

「ハンディがある方もない方も一緒に地域をもりあげられたら素敵だなと思いました。」「障害のある方々がどのような活動をされているのかがよく分かりました。」

2 障害者地域啓発事業

(1) 区民まつり福祉バザー (11月3日)

地域住民が参加する区民まつりにおいて、障害者団体が出店し、障害者と地域住民の交流の機会としました。

(2) 障害者グループホームの地域防災拠点防災訓練への参加支援 (9月～2月)

障害者が地域防災拠点の防災訓練に参加し、地域住民とお互いに顔の見える関係を築くとともに、障害者自身が拠点の役割や機能を理解していただく機会としました。



《区民まつり障害者団体自主製品販売》



《地域防災拠点防災訓練への参加支援の様子》

3 障害者施設支援事業

区民ホール、駅構内等において障害者施設の自主製品の販売活動を支援しました。また、農福連携＊の取組を行う区内障害福祉事業所に対して農作業に必要となる物品購入費（軍手や長靴等）の補助を行いました。なお、この取組はJA 横浜青壮年部都田支部と連携して実施しており、全国農協青年組織協議会主催の第71回JA全国青年大会「活動実績発表の部」で最優秀賞に選ばれました。



『農福連携 こまつなの袋詰め作業の様子』



『JA 横浜青壮年部都田支部による区長表敬の様子』

*農福連携とは

障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。（出典：農林水産省ホームページより）

主な増減	福祉農園事業「障害者と地域の共生フェスタ」の実施にあたり、一部都筑区制30周年記念事業予算を活用したことによる減
------	--

9 まちづくり総合調整事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	347万5千円	305万1千円	42万4千円

1 まちづくり・企画調整

(1) まちづくり調整

区内における建築協定の更新（港北ニュータウンつづき野（荏田東一丁目内）：6月）やまちづくり活動団体への支援などに取り組みました。また、都市計画マスタープラン都筑区プランの改定に向けて、現行プランの検証等を行いました。

あゆみが丘市有地の利活用や横浜国際プール再整備、地域交通のあり方などについても地域や事業を所管する局等と連携しながら進めました。

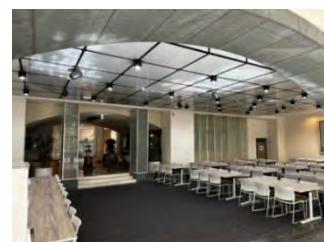
(2) 区内大学との連携

東京都市大学については、地域課題に関する意見交換会（地域連携協力会議）等を行いました。（5月27日）

令和5年4月に開校したビューティ＆ウェルネス専門職大学については、区内で外出しているときに帰宅困難となった場合の備えとして、新たに帰宅困難者一時滞在施設の指定を行う協定を締結しました。（7月18日）



《東京都市大学地域連携協力会議の様子》



《ビューティ＆ウェルネス専門職大学
(帰宅困難者一次滞在施設)》

(3) 区内企業との連携

区内企業による公立小・中学校出前講座（つづき博士俱楽部*）を行いました。

*つづき博士俱楽部とは

都筑区に立地する企業・事業所がその専門分野を生かした講座を都筑区内の公立小中学校へ出向いて講義するもの



《川和中学校での講座の様子》

（協力企業・事業所数：小学校9社、中学校8社

実施校数 : 小学校5校、中学校1校）

(4) 区内商業施設との連携

区制30周年という節目に区としてさらなる発展を目指し、子育て支援をはじめとする幅広い分野で協力・連携し、地域の課題の解決やより一層の活性化、区民サービスの向上を図るため、新たに区内の大型商業施設「ノースポート・モール」を運営する東急不動産株式会社、東急不動産SCマネジメント株式会社と連携協定を締結しました。（8月29日）



《締結式の様子@ノースポート・モール》



《締結式後の懇談@ノースポート・モール》

また、「子育て支援を通じた、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち」の実現を目的として、「三井ショッピングパーク ららぽーと横浜」を運営する三井不動産株式会社と連携協定を締結しました。（3月18日）

2 区民文化センター関連事業

7年3月に開館した都筑区民文化センター（ボッシュホール）の整備とともに、隣接する鉄道高架下用地の利活用に向けて所管局等と連携しながら進めました。

また、区民文化センターニュースの発行（6年9月）により、6年8月のボッシュホールのしゅん工をお知らせするとともに、開館に向けた広報を通して機運の醸成を図りました。



《区民文化センター 外観》



《ホール》



《開館記念式典（7年3月16日）》



《開館記念公演（7年3月16日）》

主な増減	都筑区プランの改定の検討について、入札残による委託費の減
------	------------------------------

10 危機管理対策推進事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	1,077万6千円	1,127万1千円	△49万5千円

1 関係機関と連携した災害対応力の向上

(1) 「災害対策連絡協議会」や「帰宅困難者対策部会」を開催し、警察署等の関係機関・団体と情報共有や意見交換を行いました。

- ・災害対策連絡協議会（5月10日）
- ・帰宅困難者対策部会（11月20日）



《帰宅困難者対策訓練(センター北駅)》

(2) 災害医療に関する各種会議を開催し、区医師会等の関係機関・団体と、発災時の医療体制に関する情報共有や意見交換を行いました。

(3) 区医師会等と実施する災害医療対策訓練及び交通事業者や帰宅困難者一時滞在施設等と実施する帰宅困難者対策訓練等を通じて、関係機関・団体との連携強化を図りました。

- ・「診療中」の黄旗掲出訓練（9月2日、1月17日、3月11日）

参加機関：のべ353機関（都筑区医師会、都筑区薬剤師会、昭和医科大学横浜市北部病院、区内医療機関等、都筑区役所）

- ・仮設救護所運営訓練（3月8日）

参加者：68人（都筑区医師会、都筑区薬剤師会、都筑区歯科医師会、都筑区訪問看護連絡会、昭和医科大学横浜市北部病院、つづき病院、Yナース、都筑消防署、都筑区役所）



《黄旗掲出訓練》



《仮設救護所運営訓練》

(4) 区災害対策本部の運営のため、通信機能の確保や資器材の補充を行いました。また、区災害対策本部訓練を実施することで、区職員の災害対応能力の向上を図りました。

- ・区災害対策本部訓練（9月18日）

参加機関：都筑警察署、都筑消防署、都筑区役所



《区災害対策本部訓練》

2 災害時における情報発信

(1) 災害発生時や災害発生が見込まれる際、区独自に設置の防災用スピーカーを活用し、河川沿いの住民に情報発信する他、緊急時情報伝達システムを活用し、区内の自治会・町内会長等へ避難情報等を一斉に電話で受伝達するシステムを引き続き運用します。

- ・緊急時情報伝達システム（6月7日）
- ・防災用スピーカー情報伝達訓練（7月13日）

(2) 勝田会館に設置した防災用スピーカーについては、支柱の老朽化に伴い撤去し、勝田訓練場に1基整備しました。(12月)



『勝田訓練場』



『設置したスピーカー』

主な増減	区本部用資機材（ポータブル電源、投光器）購入による増
------	----------------------------

11 災害にそなえる自助・共助の推進事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	360万1千円	400万7千円	△40万6千円

1 地域防災拠点の運営支援

地域防災拠点運営委員を対象として、能登半島地震における被災地への派遣者から現地での課題について情報共有を行うことも含めた地域防災拠点の開設・運営などに関する研修会（3回）（6月、7月、10月）を開催し、地域防災拠点における訓練を支援しました。また、男女共同参画の視点から避難所生活における女性のプライバシーの確保を図るため、着替えや授乳用の簡易テントを配置しました。

また、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された際には、各地域防災拠点の運営委員長宛に開設運営に関する留意事項を速やかに連絡するとともに、各地域防災拠点の備蓄庫が即座に使用できる状態にあるか緊急点検を行いました。

・都筑区地域防災拠点運営委員会連絡協議会（5月27日）

・地域防災拠点運営委員研修会

第1回 6月22日（出席者21人）（初任者向け研修）

第2回 7月6日（出席者23人）（訓練企画担当者向け研修）

第3回 10月26日（出席者22人）（災害ボランティアセンター運営訓練）



『運営委員研修会の様子』



『簡易テント』

2 自治会町内会等向け出前講座、防災・減災講演会の開催

自治会町内会・小中学校等を対象とした出前講座や区民向け防災・減災講演会（7月3日実施）を開催したほか、商業施設での啓発イベント（港北 TOKYU S.C.：5月6日・1月19日、ららぽーと横浜：2月9日実施）や地域情報誌を通じて、大規模地震や風水害への備えなどの知識の向上や防災・減災に関する意識啓発を図りました。

*受講者の声：

自治会町内会・小中学校等を対象とした出前講座においては、「ニュースで知ることができない被災地の現実を知れてよかったです」、「備蓄の必要量やトイレに関する備えについて勉強できてよかったです」など、災害への備えに役立つ情報が得られたとの声が多く寄せられました。

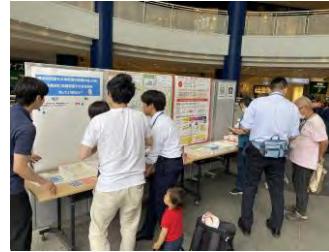
防災・減災講演会では、能登半島地震でも課題となった災害時のトイレ問題について、特定非営利活動法人日本トイレ研究所代表理事の加藤篤氏より7月3日に都筑公会堂にて講演いただきました。講演へ参加された方は260人と多くの方が参加されました。

*アンケートの結果：

「被災地のトイレ事情がよく理解出来た」、「水・食料に加えてトイレパックの備えが重要である事を始めて知った」などの感想が寄せられ、「とてもよかったです」、「よかったです」と回答された方が100%となり大変好評でした。



《地域情報誌記事》



《商業施設でのイベント》



《都筑区防災・減災講演会》



《小学生への出前講座》

3 防災マップの多言語化

災害に対する避難行動や事前の備えについて、外国人の方々の知識・理解の促進を図るために、都筑区防災マップの多言語化を進め、令和5年度に引き続き、ベトナム語とやさしい日本語への翻訳を行いました。

4 災害時要援護者支援事業（つづき そなえ事業）

災害時要援護者支援に関する地域の取組が進むよう、希望する地域に行政が保有する災害時要援護者名簿の提供を行うほか、補助金の交付、取組の必要性の啓発や事例の紹介など、各地域の実情に合わせた支援を行いました。

- ・補助金の申請地区：13地区、行政名簿の提供先：3連合3自治会

<補助金の使途の一例>

- ・災害時要援護者支援事業を周知するための広報物の作成
- ・要援護者訪問用グッズの購入

なお、在宅サービスを利用している高齢者等の安否情報が、災害時に関係者間で速やかに共有できるよう、医師会や介護関係者とともに検討を進めました。



《地域での登録ボランティア顔合わせ会》



《地域での安否確認訓練の様子》



※写真は葛が谷地域ケアプラザ広報誌から抜粋

5 災害時の健康維持啓発事業

健康づくりの観点から災害の備えを促すため作成した「食の備蓄」「口腔ケア」「衛生対策」に関する冊子「災害時にも役立つBOOK」の活用を地域防災関係者に促すとともに、保健活動推進員や食生活等改善推進員等と連携して啓発を行いました。

また、日本語を母語としない外国人や障害のある方にも情報を伝えるため、「わかりやすい版 災害のときに見るリーフレット」の版下を作成しました。

- ・保健活動推進員等による啓発：8回実施、参加者 137 人

- ・健口フェスティバル（6月16日）：参加者 約600人

*災害時の口腔ケアブースでの参加者アンケートの結果：

災害時の備えとして歯ブラシや歯みがきシートを追加しようと思ったと回答した割合 75%（すでに入れていると回答した割合 25%）

- ・「災害時にも役立つBOOK」配布部数：2,843 部



《災害時にも役立つBOOK》

《わかりやすい版
災害のときに見る
リーフレット》



《健口フェスティバル
での口腔ケア啓発》

6 災害時のペット対策事業

災害時のペット避難について、飼い主一人ひとりが適した方法を自ら考えられるよう、日頃からの備えに関する動画を配信するとともに、ペット用災害時持ち出しひきんぐ等の展示を行うなど、あらゆる機会をとらえて啓発を進めました。動画はホームページ、X、動物病院やペットショップで周知しました。

また、地域防災拠点においてペット同行避難の受入れ体制が進むよう、ペット避難所開設キット（受付物品等）を活用した各拠点の取組を支援しました。

- ・「我が家のペット防災展」：9月20日～26日
- ・日頃からの備えに関する動画の配信：7月から
- ・防災備蓄庫へのペット避難所開設キットの配布：全ての拠点（27拠点）へ配布済み



《ペット避難所開設キット》



《地域防災拠点避難訓練でのペット一時飼育場所(避難所)設営の一例》



《ペット避難所開設キットの内容
(手順書、様式、文具、シート他)》



おやつやおもちゃを使いながら、ケージ等の中
が怖くない場所だと教えましょう。

《日頃からの備えに関する動画》



主な増減	地域防災拠点配備物品（簡易テント・ポータブル電源用ソーラーパネル等）購入による増
------	--

12 安全・安心なまちづくり事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	691万4千円	622万3千円	69万1千円

1 交通安全運動

都筑区交通安全対策協議会を中心に、都筑警察署等関係機関・団体と連携しながら交通安全運動の街頭キャンペーンや交通安全教室を実施しました。さらに、日々の交通安全運動に貢献された皆様を顕彰しました。

また、子どもたちの安全・安心のため、学校や警察と連携し、スクールゾーン標示の整備や交通安全啓発等を実施し、各小学校のスクールゾーン・防犯対策協議会の支援を行いました。加えて、交通安全協会と連携し、新小学1年生へランドセルカバーを贈呈しました。

- ・交通安全運動：年間11回実施

新たに緑道（神無公園～徳生公園）での自転車マナーアップ啓発活動実施（5月）

- ・はまっ子交通あんぜん教室：9校（5月～11月）

- ・スクールゾーン・防犯対策協議会の開催

24校（区内22校+区外2校）で6月～11月に順次開催

- ・広報よこはま（7月号区版）にて自転車マナーアップ啓発を含む交通安全の特集記事を掲載

- ・新小学1年生へランドセルカバー1,960枚を贈呈



《はまっ子交通あんぜん教室》



《スクールゾーン路面標示》



《緑道での自転車マナーアップ啓発活動》





《広報よこはま（7月号区版）》



《ランドセルカバー贈呈式（3月）》

2 放置自転車対策事業

駅周辺で啓発チラシ等を配布し、放置自転車防止等を呼びかける放置自転車クリーンキャンペーンを行いました（10月）。



《放置自転車クリーンキャンペーン》

3 地域防犯活動推進事業

地域防犯活動を行う自治会町内会及び地域の自主防犯のための青色回転灯パトロール隊に対し助成金を交付するとともに、都筑警察署や都筑防犯協会と連携し、防犯活動のための研修会（10月13日（日）都筑警察署4階講堂）を行うなど、活動を支援しました。

また、都筑防犯情報メーリングリストの発信（原則週1回、登録者数約2,500人）を行いました。



《青色回転灯パトロール車出陣式の様子》



《各地域の青色回転灯パトロール車》



《防犯メーリング
リスト登録サイト》

主な増減

スクールゾーン路面標示の新設・補修の要望が想定より少なかったことによる工事請負費の減。

13 広報・広聴事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	133 万 8 千円	122 万 1 千円	11 万 7 千円

1 情報発信事業

(1) インターネットを活用した広報

区ウェブサイトや SNS (X、LINE) を活用し、区政情報や各種イベント情報の発信、広報よこはま都筑区版のオープンデータの提供などを行いました。

(2) PR ボックスを活用した広報

毎月 1 日、都筑区内全駅にある PR ボックスの見開き掲示板* に広報紙の最新号を掲示するほか、毎月 15 日には区内 46 か所の PR ボックスに広報印刷物の補充を行い、イベントやお知らせ等を周知しました。

特に利用者の多いセンター南駅・センター北駅の PR ボックスは、毎月 22 日に追加補充を行いました。

* 広報よこはま市版と区版の表紙を並べて貼りだしました。



«センター南駅設置
の PR ボックス»

(3) 主要事業の広報

広報よこはま都筑区版 5 月号で区の主要事業の広報を行いました。

また、希望のあった連合自治会にて、主要事業説明会を実施しました（5 月 6 日～6 月 22 日、10 連合で実施）。いただいたご意見は、所管部署に速やかに共有しました。

(4) 都筑の魅力発信

SNS や区ウェブサイト、デジタルサイネージを活用して写真や動画で都筑区の魅力を広く発信しました。

都筑区季節の魅力 PR 動画「めぐる季節に会える都筑」を 4 月 16 日に YouTube 等で公表し、1,500 回を超える視聴をいただきなど、多くの方にご視聴いただきました。



«南山田の虫送り (PR 動画より) » «庁舎内サイネージでの
PR 動画放映»



【動画の PR 媒体】

YouTube、PRTIMES、区ウェブサイト、区制 30 周年記念特設サイト、区庁舎内サイネージ、都筑区子育て支援センターPopola、ノースポート・モール内サイネージ、ボッシュホール内サイネージ



【動画掲載ページ】

2 広聴事業

各種広聴制度を活用し、区民の方や区内で活動する団体等の方から様々な意見を伺うことで、地域における課題やニーズの把握に努めました。

主な増減	情報発信事業の『PR ボックスを活用した広報』について、見積合わせによる委託料の減
------	---

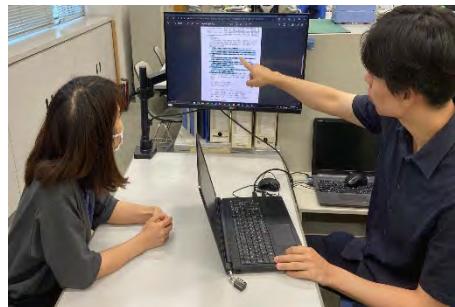
	R6 予算額	R6 決算額	差引
14 スムーズ区役所事業	1,581万1千円	1,897万円	△315万9千円

1 デジタル環境推進事業

横浜DX戦略を踏まえ、区民サービス向上や業務効率化につながる、デジタル環境を整備しました。3～5階エリアについて、区民の方が利用できるインターネット接続用無線LAN環境（公衆無線Wi-Fi）を整備し（7月に整備を行い、全フロア整備済み）、一層のペーパーレス環境の整備のため、会議室及び執務室のICT環境の整備を図りました（2月）。また、会計年度任用職員の勤怠管理システムの実証実験、戸籍課での申請書自動入力の実証実験に引き続き取り組みました。



《会議室での会議の様子》



《執務室内ミーティングの様子》

2 区庁舎環境改善

区民の皆様が快適に利用できるよう、地下1階多目的トイレへのユニバーサルシートの設置、区庁舎内3階～5階男性用トイレの洋式化を行いました。また1階の区民ホールに各種広報に活用できる「B-COR i ビジョン」（幅3.5m×高さ2m）を設置しました。あわせて、ネーミングライツを導入し、運営経費の財源を確保するとともに区民ホールの賑わい創出をはかりました。



《「B-COR i ビジョン」設置に係る記念セレモニーの様子》



3 税理士による確定申告受付事業

確定申告の期間中（2月17日～3月17日）のうち10日間、区民の皆様に身近な区役所において、専門知識を持つ税理士の協力を得て確定申告（医療費控除の還付申告）に係る申告書の作成支援・受付を行いました。

4 来庁者サービスアップ事業

来庁者が利用しやすい窓口になるよう、こども家庭支援課に窓口案内員を配置しました。

(配置時間：8時45分～17時)

また、お子さま連れの来庁者が待ち時間にお子様と過ごせる場所を提供しました。



5 人権啓発講演会

人権意識の向上を目的として、区民の皆様及び職員を対象とした人権啓発講演会を公会堂で実施しました（12月）。（参加者：595人）

*参加者アンケートの結果：

「とてもよかった」、「よかった」と回答された方が90%となり好評でした。

*参加者の声：

「前向きに考えることが大切だと思った」「『向き、不向きより前向き』という言葉に共感しました」などの声をいただきました。



《6年度人権啓発講演会の様子》

講師：川村エミコ氏

テーマ：今の私がポジティブでいられる理由

主な増減	区庁舎環境改善事業について、多目的トイレへのユニバーサルシートの設置、男子トイレ洋式改修、「B-COR i ビジョン」設置等による委託料の増
------	--

施策2 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

15 横浜ビー・コルセアーズを活かした ホームタウン活動推進事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	320万円	131万1千円	188万9千円

1 ダイバーシティスポーツ関連

青少年指導員やスポーツ推進委員を含む都筑ダイバーシティスポーツイベント実行委員会を対象に、ダイバーシティ及びインクルージョンの考え方の理解を深めるため、外部講師を招いた研修会を開催しました。

さらに、研修会で得られた学びを今後の各種イベントの際に活用できるようなコンテンツづくりなどを実行委員会とともに検討していきます。

*研修会参加者向けアンケートの結果：

・「DEI（多様性、公平性、包括性）についての関心」

【受講前】 非常に関心があった：約 14%

【受講後】 非常に関心がある： 約 71%



《6年度ダイバーシティスポーツ研修会の様子》

2 都筑区グラウンドゴルフ大会

横浜ビー・コルセアーズ協賛のもと、グラウンドゴルフ大会を開催し、シニア層へのチームの認知度向上及びプロスポーツチームとの協働による地域の一体感醸成を図りました。 (12月14日開催)



《参考：6年度の大会の様子》

3 ホームタウン広報

「都筑区応援 Day」の実施や、区庁舎を始め、センター南駅付近、区民利用施設での積極的な広報など、地域に根差したチーム作りの支援を行うことで、都筑区全体で横浜ビー・コルセアーズのホームタウン活動を推進する機運を醸成し、街の一体感の創出と地域の活性化を図りました。



《応援 Day の様子》



《センター南駅周辺装飾》

4 須藤昂矢選手の一日都筑区長就任による地域貢献活動

8月27日（火）、都筑区制30周年を盛り上げるための活動の一環として、横浜ビー・コルセアーズ背番号30番の須藤昂矢選手が「一日区長」に就任しました。委嘱状交付式や庁舎内視察を行った後、すきっぷ広場でセンター南駅前アーケード装飾デザイン発表セレモニーや須藤区長とのじゃんけん大会を開催しました。



《須藤選手の一日区長就任》



《じゃんけん大会の様子》

主な増減	ダイバーシティスポーツ関連における事業について、イベントの開催を予定していたものの、前年度の振り返りを踏まえて、都筑ダイバーシティスポーツイベント実行委員会のメンバーの DEI に対する理解を深める方向に取組内容の見直しを行なったことによる減。
------	--

16 文化とスポーツであふれるまちづくり 推進事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	172万2千円	139万3千円	32万9千円

1 つづきユースフェスティバル

地域で活動する青少年が主役となり吹奏楽やダンス等の文化活動を区民に向けて披露する第2回「つづきユースフェスティバル」を開催することで、文化活動発表の場の提供による青少年の自己表現機会の創出を図りました。

実施日：11月23日 都筑公会堂

*出演者に向けたアンケートの結果：

「本格的な舞台で踊るという体験ができたとても嬉しかった」「他の学校の発表もみることができて、自分への刺激になった」などの意見があり、青少年の成長の場を提供することができました。



《区内中学校吹奏楽部の演奏と県立高校ダンス部のパフォーマンス》

2 都筑区民文化祭事業

区民及び区内活動団体が自主的に運営する「都筑区民文化祭」の開催を支援し、区民が広く文化に親しむ機会を創出しました。

第29回都筑区民文化祭：1月18日～2月2日

- ・オープニングセレモニー：1月18日、都筑区民ホール
- ・展示部門：1月18日～2月2日、都筑区民ホール
- ※「舞台部門」は公会堂が工事休館のため中止



《第29回オープニングセレモニーと花の展示》

3 都筑スポーツ・文化賞事業

スポーツ・文化の分野においてめざましい活躍、顕著な功績のあった都筑区にゆかりのある方々を表彰し、さらなる活躍を期待するとともに、スポーツ・文化活動への関心を高めました。

実施日：1月6日 都筑スポーツ・文化賞表彰式



《表彰式の様子（6年度）》

4 スポーツ協会活動補助事業

各種スポーツ大会や講習会を開催する都筑区スポーツ協会に対し補助を行い、スポーツ、レクリエーション活動を振興し、区民の健康増進と相互の親睦を図りました。

主な増減	都筑区民文化祭の「舞台部門」が、公会堂の工事休館により中止となつたことによる補助申請額の減。
------	--

17 都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	454 万円	433 万 2 千円	20 万 8 千円

1 都筑区民まつり支援事業

区民の皆様に地域に対する愛着やふるさと意識を醸成していただけけるよう、都筑区ふるさとづくり委員会とともに、「第30回都筑区民まつり」を11月3日（祝・日）に都筑区総合庁舎及びセンター南駅周辺で開催しました。区制30周年記念ブースの設置による広報、ガーランドやちらしの装飾によるPRなどを行い、区民の皆様と30周年をお祝いしました。

*区民まつりアンケートの結果：回答者数79人

・全体の満足度 とてもよかったです・よかったです：約93%

・回答者年代 10～30代：21名、40代：31名、50代：13名、60代以上：10名



《ステージの様子》



《30周年記念フォトスポット》



《GREEN×EXPO2027 特設ブース》



《区民ホールのブースの様子》

2 商店街の魅力発信事業

都筑区商店街連合会とともに、商店街の魅力を効果的に発信する方法について検討しながら事業を進めました。複数商店街での連携イベントへの支援のほか、令和6年9月1日～11月30日にインスタ企画を実施。結果、区役所Xのインプレッション数が17,983件で10月のインプレッション数1位となり、投稿数は27件でした。



《《商店街魅力発信事業「Let's Go 商店街」》》



《《3商店街を巡るバスツアー》》

主な増減	商店街の魅力発信事業について、インスタ企画のターゲットや発信期間を効果を踏まえて委託したことによる委託料の減
------	--

18 在住外国人支援・国際交流事業 拡充	R6 予算額	R6 決算額	差引
	487万9千円	494万2千円	△6万3千円

1 在住外国人支援事業・国際交流事業

多言語による情報提供及び相談対応を実施するとともに、増加する在住外国人を支えるため、ボランティアを育成しました。言語の壁が原因で学習に課題を抱える子どもたちに對し、学校と連携した学習支援及び相談の居場所を提供しました。子育て支援センターやNPOと連携し、子育て世帯への切れ目のない支援を実施しました。

令和7年の第9回アフリカ開発会議の横浜開催が決定し、国際交流による次世代育成の期待が高まっていることから、5年度に「都筑・ボツワナ交流児童画展」10周年記念として実施した都筑・ボツワナ交流アニバーサリー事業を機に、ボツワナ共和国との交流実績を今後発展的に継続・拡充し、より幅広い年代の子どもたちを対象に多文化理解及びグローバル教育の推進を図りました。

- ・外国につながる子どものための教育相談、日本語教室、学習補修教室（通年）
- ・日本語ボランティア連絡会の実施（月1回）、養成講座の実施
- ・茅ヶ崎小学校3年生児童に向けたボツワナ国際理解教室（6月28日）
- ・都筑・ボツワナ交流児童画展（2月：区民ホール、3月：JICA横浜）
- ・DE&I[※] FESTIVALの開催（10月6日）

※ DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）とは、Diversity（多様性）、Equity（公平性）、Inclusion（包括性）の3つを合わせた言葉です。国籍や障害の有無にかかわらず、多様な人が、公平な機会のもと、違いに尊重しあい、力を発揮できる環境を実現するという概念です。



《学習支援の様子》



《駐日ボツワナ大使館による国際理解教室の様子》



《DE&I FESTIVALの様子》



2 都筑・ドイツ交流イベント事業

在住ドイツ人の多い都筑区で日独の相互理解・交流の促進及び多文化共生社会の推進を目的に、地元商業振興会や自治会町内会、東京横浜独逸学園、ドイツ企業等と連携し、センター北駅前の芝生広場を会場に「ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2024」を開催しました。(12月7日、8日)

*アンケートの結果：

「外国の方が多いので、とても本格的な雰囲気のクリスマスマーケットが楽しめました。」「地域の人と交流できた」などの意見があり、イベントを通じてドイツ文化理解や地域との交流につなげることができました。



«ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2024»

主な増減	国際交流事業の運営経費の増
------	---------------

19 メイドインつづき推進事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	361 万円	353 万 7 千円	7 万 3 千円

1 メイドインつづき PR イベント

区制 30 周年を記念し、区内の商業施設や大学、メイドインつづき企業、新鮮な横浜野菜や都筑野菜を取り扱う企業と連携し、楽しみながら“今日からできるエコな行動”を学ぶイベント「eco チャレ 2024」を都筑区役所及び港北 TOKYU S. C. で開催し、エコな行動をとるきっかけを創出するとともに、「メイドインつづき（中小製造業支援、地産地消の推進）」の PR を行いました。

（11 月 16 日開催・参加者数：約 1,000 人）

*アンケートの結果：

参加者を対象としたアンケートでは、約 41% が「メイドインつづき」を知っていたと回答（n=74）



《eco チャレ 2024》

2 中小製造業支援

（1）販路開拓・企業間連携支援

県下最大級の工業技術見本市「テクニカルショウヨコハマ 2025」（2 月 5 日～7 日）に「メイドインつづき」ブースを出展し、参加企業の技術・製品を PR するとともに、企業連携により製作したユニークな製品の数々を展示しました。（来場者数：17,602 人）

また、販路開拓や人材確保等の観点から、参加企業の販促・広報用ツールを作成し、展示会や各種催事で活用しました。

*テクニカルショウヨコハマ 2025 出展企業の声：

「メイドインつづき参加企業として出展したこと、他社から声をかけられることがあった」との声がありました。



《テクニカルショウヨコハマ 2025 の様子》



《廃材配付の様子》

（2）小学生向け廃材配付イベント

参加企業の工場から出た廃材を集め、区役所 1 階区民ホールにて小学生向けに配付しました。（8 月 7 日）

3 地産地消の推進

市内有数の農地面積、農家戸数を誇る都筑区ならではの特徴を生かし、「新鮮な野菜が手に入りやすいまち」を目指すことにより、区民一人ひとりのウェルビーイングにつなげました。

令和6年度は、都筑野菜朝市（概ね月4回）の開催のほか、港北TOKYU S.C.及びJA横浜と連携した規格外野菜の販売など、SDGsに寄与するマルシェイベントの開催の支援などに引き続き取り組みました。（港北TOKYU S.C.及びJA横浜と連携したマルシェイベント：6月29日、11月23日）

*マルシェ利用者の声：

「野菜の新鮮さを重視し、朝市やマルシェを利用している」との声がありました。



《マルシェイベント当日の様子》

主な増減	「ecoチャレ2024」の開催に係る委託料の入札残
------	---------------------------

施策3 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

20 環境にやさしいまち推進事業	R6 予算額	R6 決算額	差引
	117万円	65万5千円	51万5千円

1 エコ活の推進

区制30周年を記念し、区内の商業施設や大学、メイドインつづき企業、新鮮な横浜野菜や都筑野菜を取り扱う企業と連携し、楽しみながら“今日からできるエコな行動”を学ぶイベント「ecoチャレ2024」を都筑区役所及び港北TOKYU S.C.で開催し、エコな行動をとるきっかけを創出しました。

(11月16日開催・参加者数：約1,000人・*1)

また、区庁舎に設置されている、窓際でつる性の植物をカーテンのように育て日光を遮る緑のカーテンの維持管理を行うとともに、区内公立小中学校（14校・*2）を対象に緑のカーテンの設置支援を行いました。（～8月）

*1 アンケートの結果：

参加者を対象としたイベント満足度のアンケートでは、約94%が「とてもよかったです」「よかったです」と回答。（n=74）

*2 アンケートの結果：

実施校の子どもを対象としたアンケートでは、約80%が緑のカーテンづくりについて「とても楽しかった」「楽しかった」と回答。（n=155）



«ecoチャレ2024»



«区庁舎入口緑のカーテン»

2 クリーン推進事業

きれいな街を推進するため、自治会町内会等が実施する地域清掃の支援、駅周辺のポイ捨て防止啓発、農業専用地区等の不法投棄防止対策の支援を行いました。

- ・清掃ごみ袋配付による地域清掃の支援：74団体配付
- ・センター南駅前ポイ捨て防止啓発：（令和7年1月）
- ・農業専用地区一斉清掃：池辺、折本、新羽大熊、佐江戸宮原（7月～1月）
- ・東京都市大学の学生との協働による中川駅周辺の清掃活動（11月）



«東京都市大学の学生との清掃活動»



«農業専用地区等の不法投棄防止対策支援»

3 3R推進事業

3R行動推進のため、つづき3R週間をはじめとする各種イベントや赤ちゃん会など様々な機会を活用した区民等への啓発、「都筑区の子どもの読書活動支援」を目的とした市民団体との協働により、区民の皆様から読まなくなった本を回収し、区内の小学校へ配付しました。

また、フードドライブの推進など食品ロス削減につながる取組を資源循環局等と連携し進めました。

さらに、プラスチックごみの分別・リサイクル拡大による市民の皆様一人ひとりの行動変容をきっかけに、環境意識の更なる向上と脱炭素行動の実践、「GREEN×EXPO 2027」開催に向けた機運醸成を図りました。

- ・つづき3R週間パネル展・イベント：6月20日～6月26日、2月7日～2月11日
(6月22日 区民ホールでイベント実施：啓発物品配布 120人)
2月11日 区民ホールでイベント実施：啓発物品配布 90人)
- ・赤ちゃん会での啓発（食品ロスの削減、ごみの出し方分け方）：9月～3月（18会場）
- ・リユース図書の配付：1,375冊（11月：区内小学校等）
- ・フードドライブ活動：回収した食品を区社協を通して食の支援を必要としている方や、子ども食堂へ提供（1,136点）



《つづき3R週間パネル展・イベントの様子》



《食のお渡し会（区社協）の様子》

主な増減	「ecoチャレ2024」の開催に係る委託料の入札残
------	---------------------------

21 みんなで花と緑のまちづくり事業 拡充	R6 予算額	R6 決算額	差引
	383万1千円	361万5千円	21万6千円

1 都筑区花いっぱい運動の推進

区制30周年を契機に子どもたちに区の花サクラソウを知ってもらうとともに、花への関心を高めるため、区内小中学校に花苗を配付し、子どもたちにサクラソウを育成してもらいました。(10月・27校)

植え付け作業では、子どもたちが土や花に触れる体験を通じて、自然とのふれあいを楽しむ様子が見られました。



《茅ヶ崎小学校（植付の様子）》



《東山田中学校（植付完了）》



《都田小学校（手入れの様子）》



《荏田南中学校卒業式（サクラソウを活用）》

2 「早渕川・老馬谷ガーデン（HRG）」の維持・管理

地域及び東京都市大学と連携し、早渕川沿いの緑の拠点であるHRGの維持・管理に引き続き取り組み、区民の花や緑を大切にする心を醸成するとともに、GREEN×EXPO 2027の機運醸成を図りました。



《地域と大学生による手入れ》

3 「都筑区水と緑の散策マップ」の活用

「都筑区水と緑の散策マップ」を活用し、都筑区の環境資源の魅力を市民に発信しました。

また、物価高騰に伴い価格を改定し、令和5年度に改訂したマップを発行・販売しました。(1部400円・令和6年度685部販売)



4 みどりとみちのパートナーの推進

身近な道路や公園等を清掃、維持管理するボランティア団体（ハマロード・サポーター、公園愛護会、水辺愛護会）や個人に対して花苗や清掃用具等を提供しました。

また、パネル展（7月2日～9日）等での活動紹介や担い手を増やすための広報を行い活動の活性化を図るとともに、この機会を捉えてGREEN×EXPO 2027の機運醸成もあわせて行いました。

団体数：211団体（ハマロード・サポーター54団体、公園愛護会154団体、

水辺愛護会3団体）※3月末現在



《パネル展》



《江川せせらぎ緑道のチューリップと桜》



《ハマロード・サポーター》

主な増減

都筑区花いっぱい運動推進事業について、サクラソウの花苗購入時の見積合わせによる委託料の減



※都筑区のマスコットキャラクター「つづき あい」
第4期都筑区地域福祉保健計画推進・啓発バージョン

資料 2

令和 7 年度

都筑区自主企画事業の
執行状況について

令和 7 年 9 月 5 日

都筑区

目 次

令和7年度 都筑区自主企画事業の執行状況について

施策1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

1 妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援事業	新規・拡充	3
2 つづき健康づくりサポート事業	拡充	10
3 食と暮らしの安全推進事業		12
4 自治会町内会の地域運営応援事業		15
5 地域活動の活性化事業（区民活動センター・読書活動・青少年のボランティア）	拡充	17
6 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」推進事業		22
7 障害者交流啓発事業		25
8 地域で支える認知症支援事業	新規	27
9 まちづくり総合調整事業	拡充	29
10 広報・広聴事業	拡充	31
11 スムーズ区役所事業		33

施策2 誰もが安全・安心に暮らせるまち

12 危機管理対策推進事業		35
13 災害にそなえる自助・共助の推進事業	拡充	38
14 安全・安心なまちづくり事業	拡充	42

施策3 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

15 スポーツチーム等との連携による地域貢献推進事業	拡充	44
16 文化とスポーツであふれるまちづくり推進事業	新規	45
17 都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業		48
18 多様性にあふれるまちづくり推進事業（DEI推進事業）		49
19 メイドインつづき推進事業		53

施策4 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

20 環境にやさしいまち推進事業	拡充	55
21 みんなで花と緑のまちづくり事業	拡充	57

施策1 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

1 妊娠期から学齢期までの切れ目のない 子育て支援事業 新規・拡充	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	1,577万3千円	1,422万5千円	154万8千円

地域、関係団体、保育・教育施設、学校と連携し、子育て支援のネットワークの充実、育児不安を抱える養育者への支援、様々な課題を抱えた子どもたちの居場所づくり及び地域の親子の仲間づくりや身近な相談ができる環境の提供など、妊娠期から学齢期までの切れ目のない子育て支援に取り組みます。また、就学前児童の子育て世帯に対し、適切な保育・教育サービスを紹介します。

1 夫婦で子育て応援事業

就労をしている妊婦やパートナーが参加しやすく、また、妊娠期から子育てをサポートする施設を知り、出産後に地域の子育て関連の取組に繋がりやすくするため、引き続き、地域子育て支援センターPopola（以下「ポポラ」）、ポポラサテライト及び、身近な場所で参加できるよう区内の全ての地域ケアプラザ（6か所）において、休日両親教室を開催します。

- ・ポポラ：毎月第4土曜日、年12回 参加人数延べ42組（7月末）
- ・ポポラサテライト：毎月第2土曜日、年12回 参加人数延べ45組（7月末）
- ・地域ケアプラザ：全6か所で年2回ずつ開催 参加人数延べ12組（7月末）



《休日両親教室の様子》

2 0歳児地域育児教室（赤ちゃん会）

転入者が多い都筑区の子育て世代からのニーズを踏まえ、地域ケアプラザや地区センター、自治会町内会館など地域の身近な場所（全18か所）で月1回（8月を除く）赤ちゃん教室を開催し、乳児とその養育者が地域で互いに知り合える機会を確保し、不安軽減に繋げます。

- ・18会場198回（8月を除く毎月実施）参加人数延べ1,364人（7月末）



《赤ちゃん会の様子》

3 子育てネットワーク事業

地域の子育て支援の充実を図るため、保育園や親と子のつどいの広場などの関係機関と情報交換を行うほか、主任児童委員やこんにちは赤ちゃん訪問員など広く子育て支援に関わる方が参加する交流会を行います。

- ・子育てネットワーク会議：第1回5月30日開催 参加人数31人

第2回令和8年2月13日

- ・子育てネットワーク交流会：12月8日



《子育てネットワーク交流会の様子》

4 育児不安を抱える養育者への支援

育児不安を抱える養育者を対象に、電話や訪問等で継続的な支援を行うとともに必要に応じて心理士が個別の相談に対応します。また、成長の道筋に合わせ、「イヤイヤ期の対応」や「子どもの心の育て方」等をテーマ別に学ぶことができるよう、「乳幼児期の子育て講座」を開催します。

また、1歳6か月健診において発達状況への課題を指摘され、2歳になるまでの間に不安を抱える養育者が多いことから、発達に不安を抱える2歳前の子と親を対象に、親子で参加し心理士のアドバイスを受けられる遊びの教室「たんぽぽクラブ」を引き続き開催します。

- ・乳幼児期の子育て講座

イヤイヤ期への対応 第1回 5月30日開催 参加人数 25人

第2回 10月15日

子どもの心の育て方 第1回 8月6日開催 参加人数 37人

第2回 令和8年2月4日

- ・たんぽぽクラブ

月1回（5月・11月を除く毎月実施）参加人数延べ 20組（7月末）

5 乳幼児健診受診サポート事業

乳幼児健診における保護者の負担軽減や誰もが受診しやすい環境づくりに繋げるため、健診会場に保育ボランティアを配置し、妊娠中のサポートや同行したきょうだい児の見守りなどを行います。

・見守りスペースの利用 7組（7月末）

・付き添い対応 52組（7月末）



《乳幼児健診会場での見守りの様子》

6 身近な拠点における子育てインクルーシブ交流事業【拡充】

転入世帯や外国出身者、障害児を養育する家庭を含め、多様な背景を持つ全ての家庭が地域で支え合いながら子育てできることが求められています。そこで、地域ケアプラザ等で行っている多世代交流事業を、年齢・国籍等の垣根を越えたインクルーシブ交流に拡大することで、地域とのつながりが築ける支援を進め、誰もが子育てしやすい地域づくりを促進します。

- ・多文化交流親子イベント、ボッチャイベント等

2回開催 延べ16組38人参加（7月末）



《多文化交流親子イベントの様子
(子育て支援センターPopola)》



《ボッチャイベントの様子
(横浜あゆみ荘)》

7 外国出身者向け都筑区子育て情報誌の作成【新規】

外国につながる世帯の子育て支援に取り組む区内の支援団体等と連携し、外国出身家族のニーズを正確に捉え、実用的な外国語版子育て情報誌を作成します。データ版をWEBに公開するとともに、特に必要とされる情報はリーフレットとして配付します。

- ・事業スケジュール

5月～7月 外国出身家族のニーズヒアリング、方向性検討

8月～令和8年1月 内容調整・作成

令和8年2月～3月 公開・配付

8 おひさま広場（園庭開放）

市立保育所が、子育て中の保護者にとって地域の身近な子育て支援機関となるよう、園庭開放を行います。子育て経験のある保育協力者を配置して見守りがある中で、季節の遊びを取り入れながら子どもを安全に遊ばせるとともに、保護者の育児相談などを行います。

- ・おひさま広場：週5日（月～金曜日） 市立保育所4園
4園計276回実施、参加者延べ2,378人（7月末）
- ・おひさままつり：5月16日 みどり保育園 37組81人
5月22日 茅ヶ崎南保育園 37組79人
10月22日 大熊保育園
10月23日 中川西保育園



《おひさままつりの様子》



《保護者と保育者が話す様子》

9 積木交流（つみきのつづき）【拡充】

都筑区では、「つみきのつづき」をキャッチフレーズとして、市立保育所に合計2万個の積木を用意して積木遊びに力を入れています。積木遊びを地域の子育て世帯や民間保育・教育施設に広め、積木と親しんでいただけるように、区民ホールや子育て支援などで連携協定を締結しているノースポート・モールで親子向けの育児講座や施設への積木の貸出等を行い、子どもたちに豊かな体験を提供します。

- ・積木であそぼう！～公民合同育児講座～：令和8年1月17日 区民ホール
- ・積木であそぼう！～育児講座～：①7月25日 ②10月17日 ノースポート・モール
参加者数 ①15組36人



《ノースポート・モールでの育児講座の様子》

10 潜在保育士の保育士体験

将来的な保育士確保を目的として、保育士資格を持つても現在は働いていない方や将来保育士資格を取得して働きたいと考えている方を対象に、市立保育所で保育士体験を行います。

- ・6月～令和8年2月末まで実施



《保育士体験実施チラシ》

11 地域が支える子ども達の居場所づくり事業

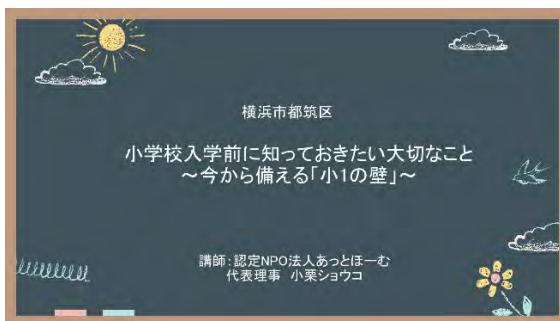
様々な課題を抱えた小中学生を対象に、生活習慣や学習習慣を身に付けられるきっかけとなるよう、地域の協力を得て、居場所づくり事業を実施します。また、送迎の必要がある児童等の支援を行います。（南部方面で実施、原則毎週火曜日）

- ・参加人数延べ38人（7月末）

12 学齢期の子どもや保護者への支援

小学校入学を控え、学校生活やPTA、放課後の預け先などに不安を感じる、いわゆる「小1の壁」に直面する保護者も多くいます。こうした不安の軽減に繋がるよう、未就学児のいる保護者を対象とした講演会（動画配信を含む。）や、子どもが同じ小学校に通う予定の保護者や先輩保護者との情報交換会を各小学校PTA等の協力のもと開催し、インターネット等では収集しづらいリアルな情報を提供します。

- ・「小学校入学前に知っておきたい大切なこと～新生活を安心して迎えるために～」（講演会及び情報交換会）：9月13日



《講演会スライド》



《情報交換会の様子》

【再配当事業】子育て支援拠点ポポラ・ポポラサテライト

就学前の親子が遊び、交流する「ひろば」の提供や子育て相談、子育て情報の提供などを行います。都筑区ではポポラ（センター北・あいたい5階）、ポポラサテライト（池辺・ららぽーと横浜3階）の2拠点を設置しています。

《利便性が高く様々な資源をもつ商業施設等とも連携し、施策の充実を図っています》

ポポラ：連携協定をもとにノースポート・モールとの連携を進めています。

ポポラサテライト：連携協定をもとにららぽーと横浜の各テナントや、新たにららぽーと横浜内に開所した図書取次所との連携を進めています。

【再配当事業】母親（両親）教室（こども青少年局）

妊娠・出産・育児について正しい知識を身につけるために母親（両親）教室（平日月1コース3回）を実施します。

【再配当事業】児童虐待防止啓発地域連携事業（こども青少年局）

児童虐待の予防、関係機関の対応力向上のため、未就学児、学齢児の関係機関に向けたテーマ別研修動画を配信します。

【再配当事業】放課後児童健全育成事業（こども青少年局）

すべての子どもたちに豊かな放課後を過ごせる場所と機会を提供するとともに、増加する留守家庭の子ども達の居場所を充実させるため、小学校施設を活用した放課後キッズクラブや放課後児童クラブ（学童）の運営を支援します。

【再配当事業】寄り添い型生活支援事業（こども青少年局）

養育環境に課題がある世帯の子どもとその保護者を対象に、生活指導による日常生活習慣の改善や、学習支援による学力定着を図るための支援を行います。（区内北部で実施）

【再配当事業】保育所・幼稚園・認定こども園子育てひろば事業（こども青少年局）

施設の地域開放、子育て相談、育児講座、園児との交流保育等を実施します。

【局事業】小学生の朝の居場所づくりモデル事業（こども青少年局）

小学生の始業前等の朝の時間に、学校施設を活用して、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所づくり事業を市内2校から10校に拡大してモデル実施します。
(都筑区実施校：荏田東第一小学校)

2 つづき健康づくりサポート事業 拡充	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	394万1千円	203万9千円	190万2千円

区民の皆様が生涯にわたり健康であり続けられるよう、区民の自主的な健康づくりを促す啓発を行います。また、地域の健康づくりを支援する各種団体が活動に取り組みやすくなるような環境づくりを進めます。

1 働く世代の健康推進事業

市民意識調査でバランスよく食べている区民の割合が減ってきてている結果が出たことから、健康的な生活習慣を身に着けていただくため、働く世代をターゲットに職場等を通じて、健康づくりの支援を進めます。

《横浜健康経営認証の取得支援》

- ・健康経営合同説明会の開催：6月20日

《健康づくりネットワーク連絡会の開催》

- ・第1回：8月26日

《ツヅキベジタブルチャレンジの実施》

- ・区内コンビニエンスストア（ローソン）におけるPOP啓発（9月1日～30日）
- ・YouTube広告の掲載（9月1日～30日）
- ・商業施設でのデジタルサイネージや映画館広告での啓発動画放映（9月）

※健康づくりネットワーク連絡会

都筑区の健康づくりの推進に関する意見交換を行う区内保健・医療・福祉の関係機関・団体及び民間事業者で構成された会議体



《健康経営合同説明会》



《都筑区医師会と作成したメンタルヘルスリーフレット》



《啓発動画イメージ》

2 がん予防啓発事業

区民ががんの早期発見・早期治療ができるよう、乳幼児健診や地域のイベント等でがんに関する知識や検診の必要性に関する啓発を行います。あわせて健康づくりネットワーク連絡会と連携し、がん検診の普及啓発や検診の必要性に関する周知を行います。

- ・3歳児健診保護者に対する乳がん・大腸がん検診普及啓発
- ・都筑区内商業施設での乳がん啓発イベント及び関係機関・団体と連携した乳がん啓発の取組（10月5日 ノースポートモールDE&I FESTIVALイベント内）
- ・保健活動推進員と連携した赤ちゃん会での保護者に対する乳がん検診普及啓発

※赤ちゃん会での乳がん啓発 1地区9人（7月末時点）



《ピンクリボンイベントの様子》



《赤ちゃん会での乳がん啓発》



3 こどものお口の健康事業【拡充】

乳幼児のむし歯予防に関する知識を普及するため、歯みがきの方法やむし歯予防の知識や手法を伝える教室を毎月区役所で実施するとともに、地域ケアプラザなどの地域会場でも開催します。



また、日本語を母語としない養育者もこどものむし歯予防に取り組めるよう、むし歯予防リーフレットの多言語版（英語・《はじめての歯みがき教室の様子》中国語・韓国語・ベトナム語・やさしい日本語）を作成します。(10月)

4 こどもの食育推進事業

こどもの食生活に関する不安を軽減し、安心して育児ができるよう地区センターや地域ケアプラザなどの地域会場で食事・歯科相談を実施します。また、こどもの成長に応じた離乳食が進められるよう離乳食講座を開催します。さらに、こどもの健全な食生活を啓発するため、小中学校・保育園等と連携し、情報交換会や研修を実施します。

・子育て支援者会場等における相談

：食事相談 5回実施、33組・歯科相談 4回実施、24組（7月末時点）

・はじめての離乳食：4回実施、51組（7月末時点）

・カミカミ・パクパク離乳食講座：1回実施、8組（7月末時点）

・第1回食育情報交換会：7月 11日 参加人数 31人

5 地域の健康づくり応援事業【拡充】

保健活動推進員や食生活等改善推進員の活動支援や各推進員の合同の研修会を行うことにより、地区活動の連携を促し、地域の健康づくり活動の充実を図ります。また、各保健活動推進員が安心して地域活動を行い、地域における健康づくり活動が活性化されるよう、外部WEBサイトを開設し、内外に向け情報発信ができる仕組みを構築します。

さらに、区民の熱中症予防のため、温度計カード等の熱中症対策グッズを配布しながら関係団体とともに啓発を行います。あわせて、関係団体に冷却グッズを提供し、安全に熱中症啓発活動ができるよう支援します。



《保健活動推進員と食生活等改善推進員の連携した活動の様子》



《熱中症対策グッズ》

【再配当事業】がん検診啓発事業（医療局）

がんを早期発見・早期治療できるよう、リーフレット等を活用してがん予防啓発を行います。

【再配当事業】各区における市民に届く情報発信（健康福祉局）

働く世代の将来的な病気のリスクを防ぐためのプロモーションを展開します。

3 食と暮らしの安全推進事業	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	69万6千円	65万6千円	4万円

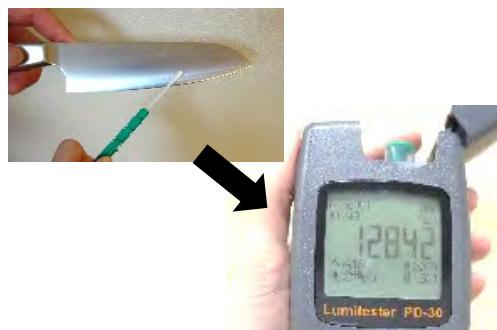
食中毒予防をはじめとする食の安全を確保するため、大量調理施設などの監視指導を行うとともに、食事を提供しているボランティア団体に向けて食品衛生の啓発を行います。

また、住まいの衛生確保について支援できるよう、特に相談が寄せられる猫のふん尿やねずみ・ハチの被害を防止するための器機等の貸出しを行います。さらに、人と動物がともに快適に暮らせる環境づくりを推進するため、動物愛護や適正飼育の啓発等を行うことにより、安全で衛生的な暮らしの普及啓発を推進します。

1 食の安全確保事業

(1) 大規模商業施設や大量調理施設への監視指導の実施

都筑区には大規模商業施設内の飲食店や大量調理施設が多く、食中毒が発生した時に被害が大きくなるリスクがあります。定期的な監視にあわせて、調理器具等の洗浄度を数値化できる機器を用いながら助言を行い、自主衛生管理の推進を促します。



《洗浄度を数値化できる機器》



《監視指導の様子》

(2) 地域活動の担い手等への検査機器を用いた食品衛生に関する啓発

高齢者の見守りを目的とした配食サービスやこども食堂などのボランティアで食事を提供する団体に対し、衛生教育のためのツール（簡易的な微生物検査ができる培地）を用いて微生物を可視化することにより、わかりやすい啓発を行います。また食品を取り扱う企業から衛生管理の専門知識を持つ担当者を招き、調理をする際に参考となる衛生に関する実践的な講習会を実施します。



《微生物を可視化して衛生教育を行うための簡易培地》



《啓発講習会の様子》

都筑区食品衛生協会と協力して行う食中毒予防キャンペーン（7月30日）や、区民ホールでのパネル展（7月25日～31日）、広報よこはま都筑区版（6、7月号）に記事を掲載するなどの方法により、食中毒予防啓発を行いました。



《食中毒予防キャンペーン》



《食中毒予防パネル展》

2 暮らしの衛生確保事業

区民から猫のふん尿被害や、家屋へ侵入したねずみ、ハチの巣に関する相談が多く寄せられます。そのため、区民生活における猫・ねずみ・ハチの被害に対する支援として、被害防止器具の貸出しなどを行います。

3 動物適正飼育推進事業

人と動物が共に快適に暮らせる環境づくりを目指し、動物愛護及び適正飼育の推進を図ります。動物愛護週間では長寿ペット表彰を実施します。また、区民まつり等において、ペットの飼育マナー及び適正な飼育などに関する啓発をします。

- ・区民ホールにて長寿ペット表彰パネル等展示：9月19日～25日
- ・動画「愛犬の安全な散歩マナー～リードは制御できる長さで！～」の配信：7月から



《長寿ペット表彰パネル展示》



《リードに関する動画》

【局事業】食品衛生監視指導事業・食の安全強化対策事業（医療局）

食品関係施設への立入検査や食品などの検査により食中毒や違反食品の流通を防止するとともに、食品の適正表示を推進して食の安全・安心を確保します。

- ・肉を原因とする食中毒対策
- ・社会福祉施設等の食品衛生対策
- ・アニサキスをはじめとする魚介類による危害発生防止対策
- ・検査による違反食品等の排除（残留農薬、アレルゲン、食品添加物等）
- ・食中毒予防キャンペーン
- ・普及啓発、リスクコミュニケーション推進事業 など

【局事業】動物愛護普及啓発事業（医療局）

動物愛護思想や適正飼育の普及啓発を積極的に行うことで、飼い主不明の犬や猫の減少を目指し、人と動物との共生を推進します。

- ・動物の愛護及び正しい飼い方の普及啓発
- ・不妊去勢手術補助事業・地域猫活動支援事業 など

4 自治会町内会の地域運営応援事業	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	396万2千円	372万3千円	23万9千円

地域コミュニティの核として重要な役割を担っている自治会町内会を中心とした地域の総合力を高めるため、夏祭りなどの機会をとらえて効果的なPRし、自治会町内会への加入促進に取り組むとともに、各自治会町内会が行う地域のつながりに資する取組に対する支援を、都筑区連合町内会自治会（以下「区連会」）と連携して行います。また、自治会町内会活動を通じて地域活動に貢献されている自治会町内会長を対象とする感謝会を開催します。

1 自治会町内会加入促進

- ・ 地域のつながりづくりのため、自治会町内会への加入促進を区連会等と連携しながら行います。
- ・ 自治会町内会魅力発信動画（区連会制作）を活用したPR
- ・ 区商連と連携して自治会の加入促進と商店街の周知のため、夏祭りに配布できるうちわを作成、配布（14000部、7月）
- ・ 区連会等と連携した未加入世帯及び未設立・新築マンションへの働きかけ、加入取次



《区商連と連携して製作した加入促進うちわ》

2 自治会町内会への情報提供

- ・ 区連会定例会資料を、毎月（8月と12月を除く）、各自治会町内会あてに配達し、区連会ホームページに掲載します。
- ・ 自治会町内会長研修について、これまでの講義方式から現役世代の会長等も参加しやすくなるためオンライン方式に変更し、経験年数の浅い会長向けに「自治会町内会基礎研修」を実施しました。（6～8月、視聴者数89件（8月末時点））

3 自治会町内会長感謝会

自治会町内会長感謝会を開催し、永年にわたり尽力された会長へ感謝状を贈呈するとともに各自治会町内会長へ、感謝の意を表します。（令和8年3月2日（月））

【再配当事業】自治会町内会館整備費補助事業（市民局）

自治会町内会が整備する会館の建設費等の一部を補助します。補助メニューは、新築・増築・耐震補強工事・修繕で、整備費の2分の1を補助します。

【再配当事業】地域活動推進費補助金（市民局）

自治会町内会等が実施する防犯、防災、環境美化など公益性の高い活動やレクリエーション活動などの事業費、総会開催費などの事務費に対して補助を行います。単位自治会町内会については1世帯あたりの補助金額を700円から900円に増額します。

【再配当事業】自治会町内会館脱炭素化推進事業（市民局）

脱炭素社会の実現に向け、地域の皆さんとともに温室効果ガスの削減に取り組んでいくため、地域活動の拠点である自治会町内会館へのLED照明やエアコン等の省エネ設備導入費用の3分の2を補助します。

【再配当事業】自治会町内会の新しい運営スタイル推進事業（市民局）

自治会町内会の「新しい運営スタイル」を創出するため、個々の課題解決や取組の具体化を支援する「アドバイザー派遣」や「イベント実施サポート」のほか、これらを通じた自治会町内会による取組事例の普及に向けた「発表会」やニュースレター等での情報発信を引き続き実施します。

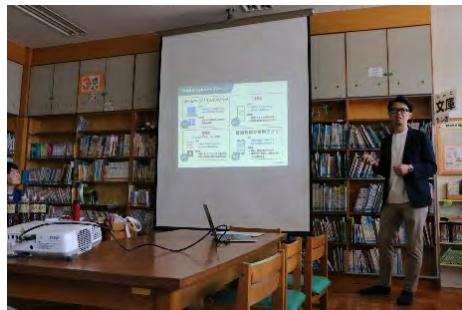
新たな試みとして、「強くあたたかい自治会町内会を目指した組織マネジメント」をテーマに、講義や意見交換を行う「学び合い交流セミナー」を開催し、経験や知恵を共有し学び合えるネットワークをつくることで、自治会町内会の持続可能な運営を目指します。また、自治会町内会と多様な地域活動主体との連携が進むよう、具体的な取組でのマッチングを行う「まちづくり交流会」や「マッチング報告会」を開催します。

当事業は、5年度に都筑区が自主企画事業費で開始し、6年度及び7年度は市民局と連携して全市に共通する自治会町内会の課題解決に取り組むモデル事業として実施しており、事業実施の効果を見極めながら今後の事業展開を検討していきます。

- ・学び合い交流セミナーの開催：6月21日、都筑区役所、参加者数27人
- ・アドバイザー派遣及びイベント実施サポートの実施：6月～3月
(対象：新規支援4地区、6年度からの継続支援4地区)
- ・まちづくり交流会の開催：9月27日、都筑区役所
- ・発表会の開催：3月、都筑区役所　・ニュースレターの発行：年2回

(学び合い交流セミナー 参加者アンケートの結果)

回答者（23人）のうち約96%が内容に対して「とてもよかったです/よかったです」と評価。「内容が具体的で分かりやすかった」「普段感じていることが言語化されて、今後の活動のヒントを得られた」といった声をいただきました。



《自治会町内会へのアドバイザー派遣》



《学び合い交流セミナー》

5 地域活動の活性化事業（区民活動センター・ 読書活動・青少年のボランティア） 拡充	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	363万9千円	409万9千円	△46万円

近年では個人と地域の関わり合いが希薄になっている一方、ボランティアや市民活動の社会的な重要性は高まっている状況です。そのため、都筑区民活動センターにおいて、区民による自主的な課題解決や市民活動を通じた地域との繋がりづくりを支援します。また、都筑多文化・青少年交流プラザと連携し、小学校高学年及び中・高校生向けボランティア事業の実施を支援することで、青少年が日常で関わる機会の少ない年代や地域の方々との交流が増え、社会性及び自主性の向上を図ります。読書については、都筑図書館や市民活動団体と連携しながら子どもを中心とした区民の読書活動推進を図ります。

このように、区の施設や市民団体等と連携しながら、子どもからシニア層まで幅広い世代を対象とした地域活動支援事業を実施します。

1 区民活動センター運営事業

（1）講座・イベントの企画・運営

地域活動のきっかけづくりや地域で活動する団体同士のつながりづくりを目的に、年間を通じて様々な講座やイベント、交流会を実施します。実施にあたり、区民利用施設や市民団体及び地域活動に関心を持つ区民と協働で企画運営に取り組むことで、地域と連携した地域活動の促進を図ります。また、幅広い世代に届けるため、区民活動センターの公式LINEやFacebook等を活用した情報発信を行います。

- ・地域活動のきっかけづくりや情報交換の場「交流サロン」（通年）
- ・地域活動団体のスキルアップ講座「縁（えん） ジンミーティング」（10月）
- ・地域活動の活動発表、交流会「つづき人（びと）交流フェスタ」（令和8年3月）



《昨年度のつづき人交流フェスタの様子》



《交流サロンの様子（左写真：5月実施、右写真：7月実施）》

(2) 自治会町内会支援の強化

市民活動団体やボランティア人材を自治会町内会につなげるため、情報提供や相談対応など自治会町内会支援の強化を図っていきます。また、「都筑スタイル」と連携し、相互の広報媒体による発信力強化や、地域で活動しているボランティアの紹介などを通じて、自治会町内会が多様な活動団体と連携できる場づくりを支援します。

さらに、従来実施していた区民活動補助事業の内容を見直し、自治会町内会と連携・協力して実施する区民活動への補助を充実させることで、自治会町内会と市民活動団体がより結びつきやすくするきっかけづくりを支援します。

補助金申請団体数 9団体



《補助金交付事業
(デフリンピック選手との交流)》



《補助事業の仕組み》

2 子どものボランティア体験事業【拡充】

夏休み期間を利用して、中・高校生がボランティア活動を体験し、日ごろ関わる機会が少ない年代や地域の方々と交流し、体験を通じて学ぶ「はあと de ボランティア～中高生のための夏休みボランティア体験～」及び小学校5・6年生向けの「はあと de ボランティア プレコース」を実施しました。

つづきMYプラザや青少年指導員が中心となり、施設や団体と連携して子どもと地域をつなぐことによって、地域で活動する大人にとっても、子どもと関わり新たな気づきの場となることを目指しました。さらに、令和7年度は年々拡大するニーズに対応するため、IT等を活用した事業の効率化等を図りました。

また、同事業の発展形として、中・高校生が1年を通して活動し来夏の体験事業を企画する「STEP UP プログラム」(局予算事業)を支援します。(通年)

- ・オリエンテーション (7月25日～29日)
- ・ボランティア体験 (8月1日～22日)

中高生コース… 83プログラム (参加者 260人)

小学5・6年生プレコース… 39プログラム (参加者 84人)

- ・振り返りと修了証授与 (8月23日、9月8日)



《オリエンテーション》



《放課後キッズクラブでのイベント開催》
(STEPUP プログラム)



《センター南駅周辺の清掃》



《修了証授与》

3 読書活動推進事業

区民の読書活動を推進するために、都筑図書館と連携し、区内の各施設で読書をテーマにした、おはなし会、講演会及び展示会などを実施します。

- ・おでかけ図書館（通年）
- ・つづきブックフェスタ（11月）



《おでかけ図書館（ららぽーと横浜の様子）》



《つづきブックフェスタ
(絵本作家とシンガーソング絵本ライターによる講演会の様子)》

【局事業】市民活動情報のデジタル化事業（市民局）
 地域活動の促進や、新たな担い手の創出につなげるため、スマートフォンなど市民の皆様の手元に、自治会町内会やNPOなど地域で活動している団体のイベント情報やボランティア募集情報等を届ける、横浜地域活動・ボランティア情報サイト「よこむすび」を青葉区、都筑区で先行オープンしています（4月17日）。区では、対象団体への周知とともに、閲覧者へのチラシの配架、SNSでの広報・PRを実施しています。



《広報よこはま5月号都筑区版》



【再配当・局事業】青少年の地域活動拠点づくり事業（こども青少年局）

中・高校生世代を中心とした青少年が安心して気軽に集い、仲間や異世代との交流、社会参加プログラム等の体験活動を行う「青少年の地域活動拠点」を実施し、青少年の社会参画に向かう力を育みます。

【再配当事業】横浜市民の読書活動推進事業（教育委員会事務局）

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例（平成25年）」等の関係法令や「横浜市図書館ビジョン（令和6年）」の関連計画等を踏まえて、令和7年3月に改訂された「第三次横浜市民読書活動推進計画」に基づき、区の「読書活動推進目標」の見直しを行います。

- ・「第三次横浜市民読書活動推進計画」の取組の柱
 - ① 未来を担う子どもたちの読書活動の推進
 - ② 市民の読書活動の環境と機会の充実
 - ③ 読書バリアフリーの推進

【局事業】地域図書館・図書取次業務委託事業（教育委員会事務局）

7年3月に開設した「ららぽーと横浜」施設内の新たな図書取次所「つづきの本ばこ」を活用し、図書館サービスへのアクセス向上を図ります。

① 利用状況（3月29日～7月31日）

- ・来所者数：約54,000人（平日：約300人/日、土・日・祝日：約800人/日）
- ・貸出冊数：約19,000冊（1日あたり：約150冊）

② 利用者の声

- ・「近くにできて嬉しい」
- ・「車で来られるようになって便利になった」
- ・「子どもと一緒に座って絵本を読めるので楽しい。」

③ 実施事業

- ・オープニングイベント：図書館おすすめ「よんでみようこんな本」企画展示、読書ボランティア「とくべつおはなし会」
- ・AI活用の絵本検索システム「ぴたりえ」の設置（5月）
- ・書店員と図書館司書のイチオシ本紹介展示（5～7月テーマ）「子育てに効く本」
- ・都筑図書館と緑図書館による月替わりの図書のテーマ展示
- ・ポポラ・サテライトでの図書館司書による「おでかけおはなし会」（6月26日）
- ・IKEAとの絵本読み聞かせワークショップ（7月12日）
- ・図書館カード出張登録会（7月12日）

④ 広報PR

- ・区の広報PR：X（旧Twitter）による「つづきの本ばこ」情報発信
おでかけ図書での「つづきの本ばこ」チラシ配布
- ・ポポラ情報誌「Popola Paper」（No. 111）での「つづきの本ばこ」紹介



《エントランス》



《本だな》



《おはなし会》



《ぴたりえタッチ》

6 都筑区地域福祉保健計画 「つづき あい」推進事業	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	250万8千円	68万6千円	182万2千円

第4期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」（計画期間：令和3年度～7年度）に基づき、福祉保健の取組への住民参加を促進し、地域活動団体や社会福祉施設等と行政が協働して、地域づくり、支えあいの仕組みづくりを進めます。

また、子どもを含む地域の皆様の意見を丁寧に聞きながら、協働して次期第5期都筑区地域福祉保健計画※の策定を進めています。9月に素案を策定し、10月には素案に対する区民意見募集を行います。

第5期都筑区地域福祉保健計画（計画期間：8年度～12年度）策定スケジュール（予定）

区計画	地区別計画
<ul style="list-style-type: none"> ・推進委員会開催及び素案の検討（～8月） ・素案策定（9月） ・区民意見募集実施（10月） ・推進委員会開催及び最終案策定（12月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区にて地域懇談会や推進委員会等を開催し、内容を検討（～9月） ・策定（10月末）
公表（令和8年2月以降）	

※地域福祉保健計画とは

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、地域の皆様と行政・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が協働して策定・推進する計画です。計画期間は5年間としており、横浜市では、「市計画」「区計画」「地区別計画」の3層で構成されます。

1 地区別計画推進会議等への支援

第4期計画推進及び第5期計画策定に向けて、地域住民による課題共有・解決の体制を促進するため、地区別計画推進会議等の取組を支援します。また、地域での取組に対して、「つづきあい基金」を通じて支援を行います。

《令和7年度「つづき あい基金」申請受付期間》

前期：6月2日（月）～7月18日（金） 後期：10月10日（金）～11月21日（金）



《地域懇談会の様子》



《地区活動（健康づくり活動）の様子》

2 都筑区地域福祉保健計画推進委員会の運営

学識経験者や各種団体の代表者等 18 人の委員からなる都筑区地域福祉保健計画推進委員会を開催します。推進委員会では第 5 期計画策定に向けて、第 4 期計画の振り返りや第 5 期計画の取組・評価方法等について、意見交換及び検討を行います。



《推進委員会の様子》

《主な参加者》

- ・自治会町内会、社会福祉協議会関係者
- ・子育て、青少年支援団体、学校関係者
- ・障害児者支援団体等関係者
- ・多文化共生支援団体関係者
- ・地域活動者（委嘱委員含む）
- ・医療関係者
- ・大学教授 等

＜議題＞

- ・第 1 回（7 月）：第 5 期計画素案（案）及び区民意見募集について
- ・第 2 回（8 月）：第 5 期計画素案（修正案）について（書面開催）
- ・第 3 回（11 月）：第 5 期計画最終案について（予定）

3 地域福祉保健の啓発・発信

（1）区民まつりなどの若年層や子育て世代を含めた幅広い層が集まる場で、地域福祉保健計画の理念や地域福祉保健の活動拠点である地域ケアプラザの周知・啓発を行います。

- ・区民まつりにおける啓発 : 11 月 3 日
- ・広報よこはま都筑区版への記事掲載 : 12 月
- ・パネル展における啓発 : 2 月

（2）第 5 期計画策定にあたっては、10 月に素案の区民意見募集を行います。

素案は、より多くの区民に見て知りたいだけるよう、本冊子の他、概要版、やさしい概要版、英語版の作成を行います。



《第 5 期区計画素案》

＜第 5 期計画素案の内容 基本理念と目指す姿＞

○基本理念

誰もが安心を実感しながら 健やかに住み続けられるまち つづき（あい）を目指して

・目指す姿 1

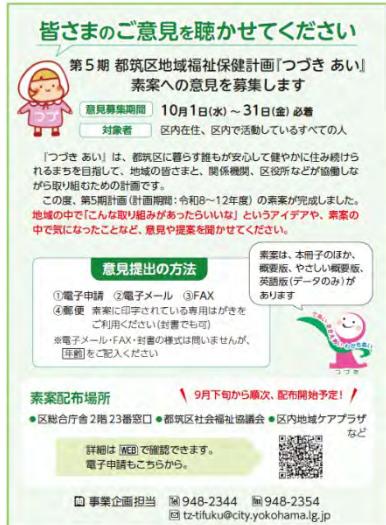
あいが広がり、つながる機会がたくさんある

・目指す姿 2

ささえあい、健やかに生活できる

・目指す姿 3

多様性が尊重され、その人らしく生活できる



《広報よこはま9月号掲載記事》

《多様な世代の意見反映》

第5期計画策定に当たり、多様な世代の意見反映に努めています。7月には、区内中学校において、地域福祉保健について授業を行ったのち、「身近な地域のだれかのために今（または将来の）自分にできること」「地域にあったほうがよいこと」について、グループワークを実施しました。いただいた意見については、今後、第5期計画へ反映していきます。



《授業の様子》

区内中学校の3年生（計8クラス）を対象に授業及びグループワークを実施
○テーマ：「地域福祉の視点」から
よりよい暮らしを考える

○中学生の意見、授業を受けた感想など

- ・地域の人と交流するために、地域のイベントに参加してみたい
- ・ボランティアに積極的に参加したい
- ・年齢、性別など関係なしにどんな人でも楽しく過ごせる機会があるとよい
- ・誰でも気軽に話せ、相談できる場がほしい
- ・今回の授業のように中学生の意見を反映できる場があって嬉しかった
- ・「地域」のことを考えるきっかけになった、地域の活動に参加してみようと思った

【再配当事業】地域福祉保健計画推進事業（健康福祉局）

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、住民、事業者、行政、社会福祉協議会、地域ケアプラザ等が福祉保健などの地域の課題解決に協働して取り組み、身近な地域の支え合いの仕組みづくりを進めることを目的として、地域福祉保健計画を推進します。

7 障害者交流啓発事業	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	101万7千円	106万7千円	△ 5万円

障害者の社会参加や地域住民等との交流を促進し、障害のある方もない方も、誰もが人格と個性を尊重し合いながら一緒に暮らせる地域共生のまちを目指します。各種事業の実施により、障害者活動への理解を進め、地域の人との関係を深めつつ農福連携の取組や地域共生社会の実現に向けた取組を更に進めていきます。

1 福祉農園事業

障害児・者の方が参加する芋の収穫体験を実施します。(10月19日)

また、12月の障害者週間にあわせて、区民ホールで障害当事者や障害者福祉事業所等の関係機関と協働により、「障害者と地域の共生フェスタ」を実施し、障害者施設の事業所紹介のパネル展や農福連携の取組紹介などを行います。(12月2日～6日)



《芋の収穫体験の様子》



《共生フェスタ 自主製品の販売》



《農福連携関連ブース》

2 障害者地域啓発事業

(1) 区民まつり福祉バザー (11月3日)

地域住民が参加する区民まつりにおいて、障害者団体が出店し、障害者と地域住民の交流の機会とします。

(2) 障害者グループホームの地域防災拠点防災訓練への参加支援 (9月～令和8年2月)

障害者が地域防災拠点の防災訓練に参加し、地域住民とお互いに顔の見える関係を築くとともに、障害者自身が拠点の役割や機能を理解していただく機会とします。



《区民まつり障害者団体自主製品販売》



《地域防災拠点防災訓練への参加支援の様子》

3 障害者施設支援事業

障害者の社会参加につなげるため、区民ホール、駅構内等において障害者施設の自主製品の販売活動を支援します。また、農福連携※の取組を行う区内障害福祉事業所に対して、農作業に必要となる物品購入費の補助を行うとともに、「障害者と地域の共生フェスタ」期間中に都筑区の農福連携の取組や成果物を区民の方に周知します。(12月)

なお、この取組は JA 横浜青壮年部都田支部と連携して実施しており、全国農協青年組織協議会主催の第71回 JA 全国青年大会「活動実績発表の部」で最優秀賞に選ばれました。



《駅構内での自主製品販売の様子》



《たい肥まきの作業》



《こまつなの袋詰め作業》



《JA 横浜青壮年部都田支部による
区長表敬の様子》

※農福連携とは

農福連携とは、障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。(出典：農林水産省ホームページより)

農作業受注促進モデル事業（健康福祉局、みどり環境局）

令和6年度から「障害のある方に対して農作業の指導を行う指導者の育成」等を通じて、受注作業として「農作業」を行うことのできる障害福祉事業所を増やし、よこはま障害者共同受注総合センター「わーくる」へ作業内容「農作業」での登録を促しています。

8 地域で支える認知症支援事業	新規	R7 予算額	R6 予算額	増△減
		60 万円	-	60 万円

いつまでも住み慣れた地域で、互いに支えあい、安心して暮らし続けることができるまち“都筑”の実現を目指し、認知症基本法の基本理念に則り、認知症に対する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深めるため、普及啓発に関する取組を推進します。

○ 認知症VR体験会の開催

認知症の人の想いを知り、認知症の人とともに生きる社会を考えるきっかけとするため、錯視（※注1）や幻視（※注2）、空間を把握する能力の低下など認知症の症状を本人視点で体験することができるバーチャルリアリティ（VR）の技術を活用した体験会等を開催（9月2日、11月）します。

- ・9月2日（火） 認知症パネル展においてVR体験ブース設置（区役所1階区民ホール）
 - ・11月（調整中） 支援者向け認知症VR体験講座（区役所会議室）

※注1 目で見ているものが実際とは異なって見える症状

※注2 実際には存在していないものが見えてしまう症状



《参考》他区での認知症 VR 体験会の様子

（再配当事業）認知症フォーラム（健康福祉局）

区内の方へ認知症の症状や治療方法、相談先、経過等、関連する情報を広く提供し、認知症だけでなく認知症の方や家族等への対応等についても、理解を深めるための講演会やパネル展等を開催します。

令和7年度 都筑区認知症フォーラム

日時：令和7年9月20日（土）14～16時

会場：ボッシュホール（都筑区民文化センター）

テーマ：若年性認知症の母と生きる

～大切な人が認知症になつたら、あなたはどうする？～

講師：フリーアナウンサー 岩佐 まり 氏



【局事業】認知症サポーター養成講座（健康福祉局）

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、自分のできる範囲で活動する応援者である「認知症サポーター」を養成する講座を開催し、地域における認知症に対する普及啓発を推進します。

【再配当事業】認知症サポート連絡会（健康福祉局）

地域の方や認知症に関わる団体、キャラバンメイト等が集まり、認知症普及啓発活動の企画や課題検討、勉強会の実施、各グループの活動に関する情報交換等を行います。

【再配当事業】認知症高齢者等SOSネットワーク事業（健康福祉局）

認知症により行方不明になる恐れのある高齢者等について事前登録することにより、本人が行方不明になった時に速やかに発見・保護する制度を運用します。

【再配当事業】認知症高齢者保健福祉相談事業（健康福祉局）

嘱託医師による高齢者のもの忘れ、認知症、こころの病などの相談を原則として毎月第2金曜日に区役所において実施します。

【局事業】認知症初期集中支援チーム（健康福祉局）

認知症の知識をもつ専門職が、認知症又は認知症が疑われる人を訪問し、専門医療機関への受診、介護サービスに関する説明や利用支援、認知症の状態に応じた助言等を行います。都筑区は、「横浜新都市脳神経外科病院」にチームを設置し、月1回定例会を開催します。

9 まちづくり総合調整事業 拡充	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	629万5千円	347万5千円	282万円

まちづくりに関する区民の皆様の声を聴き、区内企業・教育機関等との連携、地域の実情に応じたきめ細やかなまちづくりの普及・啓発、区民主体のまちづくりの支援等により、地域の課題解決等を図るための検討や取組を進めます。

また、まちの魅力を活かしたにぎわいの創出などのまちづくりに取り組みます。

1 まちづくり・企画調整【拡充】

(1) まちづくり調整

都市計画マスターPLAN都筑区PLAN（※参考参照）の改定に向けて、他都市や他のニュータウンの状況との比較検討等から都筑区の現状を把握し、都筑区の将来像やまちづくりの方針等の検討を進め、改定の骨子案を作成します。

また、緑道の魅力アップを目的とした緑道等の土地の利活用のための民間事業者との対話に向けて、土地の要件や課題の整理を行います。



《緑道（せきれいのみち）》

(2) 区内大学との連携

区内に所在する東京都市大学及びビューティ＆ウェルネス専門職大学と、会議等の開催を通して、地域課題の解決に向けた連携を強化します。

東京都市大学と、地域課題に関する意見交換会（地域連携協力会議）を行いました。（5月30日）



《東京都市大学・
地域連携協力会議の様子》

(3) 区内企業・区内大型商業施設との連携

区内企業による公立小・中学校出前講座（つづき博士俱楽部※）を行います。

また、令和6年度に連携協定を締結した東急不動産株式会社、東急不動産SC マネジメント株式会社をはじめ、区内の大型商業施設を運営する企業と連携し、商業施設を活用したイベントの開催や広報を行います。

※つづき博士俱楽部とは

都筑区に立地する企業・事業所が、専門分野を生かした講座を都筑区内の公立小中学校へ出向いて講義するもの

（協力企業・事業所数：小学校9社、中学校8社）



《区内大型商業施設との連携（のすぼの学校）》

【参考】都市計画マスタープラン 都筑区プラン（平成28年3月改定）とは

- ・概ね20年後を見据えた、まちづくりの目標や土地利用の指針となるものです。都市計画に関する方針や情報等をまとめ、区民の皆様にお知らせする役割等もあります。
- ・全市プランである「横浜市都市計画マスタープラン全体構想」が7年5月に改定されたことを受け、18区の区プランについても、改定します。

【局事業】あゆみが丘市有地活用事業（建築局・財政局）

「省エネ性能のより高い住宅*」のモデル街区の創出や、多世代共生のコミュニティ形成の場となる交流スペースの創出等の土地利用の実現に向けて、地区計画の変更手続を行います。

*最高レベルの断熱性能（等級6、7）や気密性能を備えた住宅

【局事業】地域交通サービスの導入支援（都市整備局）

地域交通の導入促進と持続性向上を図るため、最低運行本数（20便／月以上）等の要件を満たす場合には本格運行時の車両修繕費やボランティアへの謝礼に対する補助など、7年4月より支援内容を拡充しました。支援制度の拡充に合わせ、本格運行している「都田地区ボランティアバス」に関しても、地域の実情にあわせ、継続的に支援を行っています。

【局事業】横浜国際プール再整備事業（にぎわいスポーツ文化局）

横浜国際プールは供用開始から25年以上が経過し、大規模な設備等の更新が必要となっています。この機会を捉え、7年3月に策定した再整備事業計画に基づき、メインアリーナの通年スポーツフロア化とともに、スポーツマンガライブラリー、屋外遊具の設置、斜行モノレールの整備など、次世代を育む複合型スポーツアリーナに向けた再整備事業を進めていきます。

10 広報・広聴事業 拡充	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	260万4千円	133万8千円	126万6千円

広報よこはまや区ホームページ、SNS、デジタルサイネージ、区民ホールの大型LEDビジョンを活用し、区政情報や区の見どころなどを広く発信します。特に、「my つづき Instagram キャンペーン」等の区制30周年記念事業を通して再発見された地域の魅力について、引き続き発信していきます。

また、市民からの提案やデジタルプラットフォーム等の各種広聴事業を活用し、こどもから高齢者までの多様化する区民ニーズや地域の課題を受け止め、事業への反映を検討し、区民目線・利用者目線による施策の充実を図ります。

1 情報発信事業【拡充】

(1) インターネットを活用した広報

区ホームページやSNS(X、LINE)を活用し、区政情報や各種イベント情報の発信、広報よこはま都筑区版のオープンデータの提供などを行います。

(2) PRボックスを活用した広報

毎月1日、都筑区内全駅にあるPRボックスの見開き掲示板(*:赤枠)及び新しく開館した都筑区民文化センター『ボッシュホール』に広報紙の最新号を掲示するほか、毎月15日に広報印刷物の補充(計46か所)を行い、イベントやお知らせ等を周知します。

また、利用者の多い駅のPRボックスについては、駅利用者からより注目されるよう装飾やラッピングを施すなど、PRボックスの改善を行います。



《センター南駅 PRボックス》



《ボッシュホール PRボックス》

(*) 広報よこはま市版と区版の表紙を並べて貼り出しています

(3) 都筑の魅力発信

SNS や区ホームページ、デジタルサイネージ、大型 LED ビジョンを活用して写真や動画で都筑区の魅力を広く発信します。また、区のマスコットキャラクター「つづき あい」のイラストを新たに作成します（10月頃）。イラストは写真や動画内で使用しやすいデザインとすることで、活用の機会を増やし、より親しみやすい広報を行います。



《活用イメージ》

(4) 広報研修の実施

区民へ向けて必要な情報をより伝わる形で発信できるよう、自治体広報に詳しい外部講師を招き区職員向けに広報マインドの向上・広報のスキルアップを目的とした研修を実施します（9月 24 日）。

(5) 広報アンケートの実施

区民のニーズを把握し、効果的な広報を行うため、区の広報に関するアンケートを実施しました（7月 1 日～31 日）。また、都筑区の地域資源を活用した景品を用意することで、地域の魅力の認知度向上にもつなげました。

※広報アンケートの結果：『満足』・『やや満足』と答えた方の割合（計 231 人）

- 広報よこはま都筑区版 89% (140 回答)
- LINE 84% (123 回答)
- X 93% (14 回答)

2 広聴事業

各種広聴制度を活用し、区民の方や区内で活動する団体等の方から様々な意見を伺うことで、地域における課題やニーズの把握に努めます。

また、デジタルプラットフォームによる区民意見募集を行い、32 人の区民の方から合計 52 件のご意見・アイデアをいただきました。（実施期間：6 月 11 日～7 月 10 日）

11 スムーズ区役所事業	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	1,223万8千円	1,581万1千円	△357万3千円

庁舎内のデジタル環境整備や、来庁者へのサービスを向上することにより、業務の効率化と区民の皆様が利用しやすいスムーズな区役所を実現します。また、人権啓発講演会を通じて多様性が尊重される社会を目指します。これらについては、常に DEI の視点をもって取り組んでいきます。

1 デジタル環境推進事業

横浜 DX 戦略を踏まえ、区民サービス向上や区役所業務の効率化につながるペーパーレス化や RPA、動画を活用できるデジタル環境を整備[※]し、来庁者や働く人の利便性の向上を目指します。また、会計年度任用職員の勤怠管理システムの試行実施に引き続き取り組んでいます。さらに、区庁舎1階区民ホールに設置した「B-COR i ビジョン」を GREEN×EXPO 2027 等の広報に活用しています。

※全フロアの公衆無線 Wi-Fi 及び主要会議室のモニター等を令和6年度までに整備済

7年2月3日から区庁舎2階においてマルチコピー機[※]の稼働開始

※マイナンバーカードを利用して住民票等各種証明書の取得ができる端末



『会議室での会議の様子』



『マルチコピー機の利用の様子』



『「B-COR i ビジョン」の様子』



2 区庁舎環境改善

区民の皆様が快適に利用できるよう、区庁舎の環境改善や整備を行います。

3 来庁者サービスアップ事業【拡充】

来庁者が利用しやすい窓口になるよう、こども家庭支援課に窓口案内員を配置とともに（配置時間：8時45分～17時）、事前WEB発券や自動呼出通知機能を持つ窓口発券システムを導入します（～令和8年3月）。

また、お子さま連れの来庁者が待ち時間にお子様と過ごせる場所を提供します。



《窓口での案内の様子》



《番号発券機の例》

4 人権啓発講演会

人権意識の向上を目的として、区民の皆様及び職員を対象とした人権啓発講演会を実施します（令和8年2月）。

【再配当事業】区庁舎等改善事業（市民局）

区庁舎において、6階食堂跡地に、土木事務所等の職員向けのシャワー室、休憩室等の整備を行っています。（8月～令和8年3月に工事実施）

18区役所初！災害備蓄食を保管した自動販売機を導入しました

～都筑区総合庁舎 災害救援自動販売機、おむつ対応自動販売機の設置について～

6月、1階区民ホールに、災害救援機能を備え、来庁者がこども用おむつを購入できる自動販売機計3台を導入しました。

あわせて、自動販売機に併設するリサイクルボックスの上部を活用し、備蓄食が保管されました。
発災時には、これらの備蓄食を区災害対策本部が活用できます。



長期保存食を備えたリサイクルボックス (広報でも活用)

施策2 誰もが安全・安心に暮らせるまち

12 危機管理対策推進事業	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	954万7千円	983万6千円	△28万9千円

令和6年1月の能登半島地震発生や、8月の南海トラフ地震臨時情報対応、また土砂災害警戒情報対応として新たに区独自の避難場所を開設したこと及び新たな地震防災戦略の方向性等を踏まえ、これまでよりも一層の各種災害対策を推進していきます。

大雨や台風による河川の氾濫を想定した情報受伝達、地震により負傷者が多数発生したことと想定した災害医療対策訓練などの各種訓練を通じて、関係機関・団体との連携を図ります。

また、がけ地区域の住民に対し風水害の啓発を行う他、風水害時の避難場所においても環境を整備するなど風水害対策を進めます。

1 関係機関と連携した災害対応力の向上

- (1) 「災害対策連絡協議会」や「帰宅困難者対策部会」
(令和8年1月)を開催し、警察署等の関係機関・団体と情報共有や意見交換を行います。
 - ・災害対策連絡協議会（6月11日）
- (2) 災害医療に関する各種会議を開催し、区医師会等の関係機関・団体と、発災時の医療体制に関する情報共有や意見交換を行います。
- (3) 区医師会等と実施する災害医療対策訓練及び交通事業者や帰宅困難者一時滞在施設等と実施する帰宅困難者対策訓練等を通じて、関係機関・団体との連携強化を図ります。
 - ・「診療中」の黄旗掲出訓練
 - (9月1日、令和8年1月17日、3月11日)
 - ・仮設救護所運営訓練（令和8年3月7日）
- (4) 区災害対策本部の運営のため、通信機能の確保や資器材の補充を行います。また、区災害対策本部運営訓練（9月26日）を実施することで、区職員の災害対応能力の向上を図ります。



《帰宅困難者対策訓練(センター北駅)》



《黄旗掲出訓練》

2 災害時における情報発信

災害発生時や災害発生が見込まれる際、区独自に設置の防災用スピーカーを活用し、河川沿いの住民に情報発信する他、緊急時情報伝達システムを活用し、区内の自治会・町内会長等へ避難情報等を一斉に電話で受伝達するシステムを引き続き運用します。

- ・緊急時情報伝達システム受伝達訓練（6月6日）
- ・防災用スピーカーの試験放送（6月7日）

3 風水害対策の取組 【拡充】

(1) 土砂災害警戒区域及び特別警戒区域の世帯の方が、主体的に避難行動等をとることができるように、居住区域の指定状況の確認方法、避難情報等が自動配信されるアプリやSNS、緊急時情報伝達システムへの登録勧奨などを記載した啓発チラシを対象世帯に全戸配付しました。(配付部数 2,711 部)



《啓発チラシ・表面》



《啓発チラシ・裏面》

(2) 土砂災害警戒情報発表時に避難指示が発令された区域以外の方が自主避難できるよう区役所を避難場所として開設します。また、区役所にコット(簡易ベッドの一種)20台、簡易テント10張、冷風扇2台などを出水期(梅雨や台風など雨が多い時期:6月から10月)に配備し、避難場所の環境を整備しました。



《コット》



《簡易テント》



《冷風扇》

(3) 土砂災害警戒区域及び特別警戒区域のがけ地を所有する方が、当該がけ地やよう壁等の不安・問題点について地盤の専門家に相談する事ができるがけ地相談会を区内で11月に二日間の予定で開催します。

- ・がけ地相談会(11月28日、29日)



《がけ地相談会》

【局事業】横浜市がけ地相談会（建築局）

横浜市内に宅地等を所有する方を対象に、ご自宅のがけ地やよう壁等の不安・問題点について、専門家に無料で相談することができる「横浜市がけ地相談会」を開催します。

■会場：西区みなとみらい

■定員：36組

13 災害にそなえる自助・共助の推進事業 拡充	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	574万4千円	454万1千円	120万3千円

広報よこはまや防災・生活マップ等を活用した啓発活動に加えて、地域防災拠点運営委員向けの研修会、防災・減災講演会の開催、及び災害時要援護者支援事業(つづき そなえ)による地域の取組支援等を実施することで、自助・共助の取組を推進し、地域防災力の向上を図ります。これらについては、新たな地震防災戦略における自助共助の取組と連携し、また、DEI の考え方をベースとして各種取組を進めていきます。

1 地域防災拠点の運営支援

地域防災拠点運営委員を対象として、地域防災拠点の開設・運営などに関する研修会（3回：6月、7月、10月）を開催するとともに、地域防災拠点における訓練を支援します。

また、地震防災戦略も踏まえ、女性の視点から安心安全な避難所生活を送るための備品（センサーライト・防犯ブザー等）の配置を推進します。（9月下旬）（令和6年度はプライバシーテントを配備）

・都筑区地域防災拠点運営委員会連絡協議会（5月26日）

・地域防災拠点運営委員研修会

第1回 6月14日（出席者15人）（初任者向け研修）

第2回 7月6日（出席者22人）（訓練企画担当者向け研修）



《運営委員研修会の様子》



《センサーライト》



《防犯ブザー》



《プライバシーテント》

2 自治会町内会等向け出前講座、防災・減災講演会の開催

自治会町内会・小中学校等を対象とした出前講座や区民向け防災・減災講演会（令和8年2月）を開催するとともに、商業施設での啓発イベントや地域情報誌を通じて、大規模地震や風水害への備えなどの知識の向上や防災・減災に関する意識啓発を図ります。



《防災・減災出前講座》



《都筑区防災・減災講演会》

（6年度 災害時のトイレ問題について）



《商業施設でのイベント》



《地域情報誌記事（6月掲載記事）》

3 防災マップの多言語化

災害に対する避難行動や事前の備えについて、外国人の方々の知識・理解の促進を図るために、都筑区防災マップの多言語化を進めます。6年度までに多言語対応した英語、中国語、韓国語、ベトナム語及びやさしい日本語に続いて、ドイツ語への翻訳を行います。
なお、ドイツ語への翻訳は18区中初めてになります。

4 災害時要援護者支援事業（つづき そなえ事業）

災害時要援護者支援に関する地域の取組が進むよう、希望する地域に行政が保有する災害時要援護者名簿の提供を行うほか、補助金の交付、取組の必要性の啓発や事例の紹介など、各地域の実情に合わせた支援を行います。



《取組啓発のための冊子》



《地域が実施する意見交換会の様子》



《要援護者グッズ》

5 災害時の健康維持啓発事業【拡充】

健康づくりの観点から災害の備えを促すため作成した「食の備蓄」「口腔ケア」「衛生対策」に関する冊子「災害時にも役立つBOOK」の活用を地域防災関係者に促すとともに、保健活動推進員や食生活等改善推進員等と連携して啓発を行います。

また、日本語を母語としない外国人や障害のある方にも情報を伝えるため、「災害時にも役立つBOOK」の一部内容を編集し、やさしい日本語で表現した「わかりやすい版 災害のときに見るリーフレット」を新たに発行しました。（8月）



《災害時にも役立つBOOK》

咳工チケット

咳やくしゃみのしぶきには菌やウイルスがいっぱい。「咳工チケット」は周りの方にうつさないためにとても大切です。

マスクを着用する

すきまがないように
口・鼻を覆う



マスクがない時

ティッシュ・
ハンカチで
口・鼻を覆う



とっさの時

手のひらを
汚さないように袖で
口・鼻を覆う



《わかりやすい版》

災害のときに見るリーフレット

咳をするとき

咳やくしゃみをすると、菌やウイルスが飛びます。
まわりの人々が病気にならないように、マスクをします。



マスクをします



マスクがないとき



とっさに咳やくしゃみが出了たとき

災害のときに見る リーフレット



6 災害時のペット対策事業

災害時のペット避難について、飼い主一人ひとりが適した方法を自ら考えられるよう、日頃からの備えに関する動画を配信するとともに、ペット用災害時持ち出しへグッズ等の展示を行うなど、あらゆる機会をとらえて啓発を進めます。

また、地域防災拠点においてペット同行避難の受入れ体制が進むよう、防災備蓄庫にあるペット避難所開設キット（受付物品等）を活用した各拠点の取組を支援します。

- ・ペット防災対策セミナー：9月23日、区役所6階大会議室



《ペット避難所開設キット》



《ペット避難所開設キットの内容
(手順書、様式、文具、シート他)》



《イベントでのペット災害対策啓発》

【局事業】地域防災拠点の機能強化（総務局）

大地震発生時に、自宅で生活できない際等に避難する地域防災拠点において、配慮が必要な方も含めた様々な避難者の生活を支援するため、必要な備蓄品の配備の強化や拠点の環境整備を行うとともに、本市の物資を備蓄する倉庫等の整備を進めます。

【局事業】地域の防災担い手育成事業（総務局）

町の防災組織のメンバーや地域防災拠点運営委員を対象とした研修を通じて、地域防災の担い手を育成します。「よこはま防災研修」では、オンライン形式で気軽に参加できるウェブ研修の実施や、災害時に行動に結び付く体験型研修を充実し、地域における担い手の裾野を広げます。

【再配当事業】災害時要援護者支援事業（健康福祉局）

発災時、自力で避難することが難しい高齢者や障害者等の避難を地域が支援できるよう、日頃から顔の見える関係作り等を進めていただくため、災害時要援護者名簿の作成や、支援方法等に関する周知・啓発を行います。

14 安全・安心なまちづくり事業 拡充	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	741万8千円	691万4千円	50万4千円

「安全で安心」を実感できる「ふるさと都筑」を実現するため、交通安全、スクールゾーン協議会支援、放置自転車対策、防犯パトロール支援等を行います。また、区内での交通死亡事故やいわゆる「闇バイト」のような多様化した犯罪の発生を踏まえ、交通安全や防犯にかかる施策を強化し、市民局や警察等と連携しながら区民の安全・安心に対する意識啓発をより一層推進します。

1 交通安全運動【拡充】

都筑区交通安全対策協議会を中心に、都筑警察署等関係機関・団体と連携しながら交通安全運動の街頭キャンペーンや交通安全教室を実施します。さらに、日々の交通安全運動に貢献された皆様を顕彰します。

また、子どもたちの安全・安心のため、学校や警察と連携し、スクールゾーン標示の整備や交通安全啓発等を実施し、各小学校のスクールゾーン・防犯対策協議会の支援を行います。加えて、交通安全協会と連携し、新小学1年生へランドセルカバーを贈呈します。

- ・交通安全運動：緑道での自転車マナーアップ他6回実施済。今後4回実施予定
- ・はまっ子交通あんぜん教室：6校実施済。今後3校実施予定
- ・スクールゾーン・防犯対策協議会：24校（区内22校+区外2校）で開催予定
- ・地域情報誌や広報よこはま（7月号掲載。以降11、3月号予定）にて、自転車で事故に遭わない・起こさないための交通事故防止の啓発を実施
- ・新小学1年生へランドセルカバーを贈呈（令和8年3月頃）



《緑道での自転車マナーアップ啓発活動》



《はまっ子交通あんぜん教室》

2 放置自転車対策事業

駅周辺で啓発チラシ等を配布し、放置自転車防止等を呼びかける放置自転車クリーンキャンペーンを行います（10月）。



《放置自転車クリーンキャンペーン》

3 地域防犯活動推進事業【拡充】

地域防犯活動を行う自治会町内会及び地域の自主防犯のための青色回転灯パトロール隊に対し助成金を交付します。加えて、これまで自治会町内会等で防犯活動に取り組まれている方を主な対象としていた研修会を拡充し、近年のいわゆる「闇バイト」のような社会的影響の大きな事件に対し、犯罪被害に合わないための具体的で分かりやすい防犯対策を学ぶことができる区民向け講演会を、都筑警察署や都筑防犯協会等と連携して実施します。

また、都筑区防犯情報メーリングリストの発信（原則週1回、登録者数約2,500人）や、広報よこはまでの防犯啓発コラムの掲載（5、9月号掲載。以降1月号予定）を行います。



『防犯活動のための研修会の様子』



『青色防犯パトロール隊出陣式の様子』



『防犯メーリング
リスト登録サイト』

【再配当事業】地域防犯活動支援事業（市民局）

防犯に関する物品などを自治会町内会等に配付することにより、地域での防犯活動を支援します。

【局事業】地域の防犯力向上緊急対策事業（市民局）

自治会町内会等が地域の防犯力向上に向け実施する、防犯パトロール、防犯用品購入、センサーライトの整備、防犯講座の開催といった公益的な取組に対して緊急的な補助を行い、地域防犯向上の取組を支援します。

＜対象団体＞ 自治会町内会、地区連合町内会

＜補助対象＞ 自治会町内会等が地域の防犯力向上に向け実施する公益的な取組

（例）防犯パトロール実施・防犯用品購入経費、センサーライト等防犯設備機器の整備費、防犯講座の開催経費 等

＜補助額＞ 補助率：10分の9、補助上限額：20万円

施策3 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

15 スポーツチーム等との連携による地域貢献推進事業 拡充	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	40万円	20万円	20万円

都筑区では、平成29年3月に横浜ビー・コルセアーズ、都筑区連合町内会自治会、区役所の三者で締結した「ホームタウン活動の協力に関する基本協定」に基づき、チームによる地域貢献活動等を通じて、連携を進めています。

これに加え、都筑区と関わりの深いスポーツチームによる地域貢献事業での連携も図り、スポーツ振興やこどもたちの心身の健全育成、街の賑わい創出等を進めます。

1 横浜ビー・コルセアーズホームタウン広報

「都筑区応援Day」や子ども向けバスケットボール&チアダンスクリニック等の地域貢献活動を通じて、スポーツ振興や街の賑わい創出等を進めます。



《バスケットボール&チアダンスクリニック》



《応援Dayの様子》



《B-COR i ビジョンの様子（再掲）》

2 都筑区と関わりの深いスポーツチーム等との連携事業

都筑区と関わりの深いスポーツチームによるスポーツ体験イベントや講演会等の地域貢献事業での連携を図り、区民がスポーツに触れる機会の更なる拡大や賑わいの創出、ウェルビーイングの向上を図ります。

16 文化とスポーツであふれるまちづくり 推進事業 新規	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	355 万 2 千円	272 万 2 千円	83 万円

都筑区を拠点とした文化・スポーツの活動を支援することで、広く区民が文化・スポーツに親しむ機会を提供します。

つづきユースフェスティバル・都筑区民文化祭等を通じて区民が活動を発表する機会や文化に触れる機会を創出し、多様な文化活動の振興を図ります。また、スポーツ協会活動補助事業・グラウンドゴルフ大会等を通じて、スポーツ活動の普及・振興を図ります。

これらの取組を着実に進めることで、区内の文化・スポーツ活動の総合的な活性化を促します。

1 つづきユースフェスティバル

地域で活動する青少年が主役となり吹奏楽やダンス等の文化活動を区民に向けて披露する第3回「つづきユースフェスティバル」を開催することで、青少年の自己表現機会の創出を図ります。

実施日：11月23日（ボッシュホール）



《第2回つづきユースフェスティバルの様子》

2 都筑区民文化祭事業

区民及び区内活動団体が自主的に運営する「都筑区民文化祭」の開催を支援し、区民が広く文化に親しむ機会を創出します。

実施日：令和8年1月24日～2月8日

開催場所：展示部門：区民ホール、舞台部門：ボッシュホール



《第29回オープニングセレモニーと花の展示》

3 伝統芸能事業【新規】

地域や古来から伝わる伝統芸能・伝統文化を次世代へ継承するため、区内の伝統芸能関連団体の方々とともに普及活動を検討・実施していきます。令和7年度は、区内で活動されている団体の調査を行うとともに、指定管理者等とも連携してボッッシュホール等で関連イベントを開催し、子どもを中心として区民が広く伝統芸能等に親しむ機会を創出します。

伝統芸能体験イベント実施日：8月9日（土）



《令和7年度 伝統芸能体験イベントの様子》

4 都筑スポーツ・文化賞事業

スポーツ・文化の分野においてめざましい活躍、顕著な功績のあった都筑区にゆかりのある方々を表彰し、さらなる活躍を期待するとともに、スポーツ・文化活動への関心を高めます。

実施日：「令和8年 都筑区賀詞交換会」と同日開催予定



《表彰式の様子》

5 スポーツ協会活動補助事業

各種スポーツ大会や講習会を開催する都筑区スポーツ協会に対し補助を行い、スポーツ、レクリエーション活動を振興し、区民の健康増進と相互の親睦を図ります。

6 都筑区グラウンドゴルフ大会

都筑区スポーツ推進委員連絡協議会主催の都筑区グラウンドゴルフ大会の開催により、地域間交流の促進や区民の健康増進、スポーツ振興を図ります。

実施日：11月30日



《都筑区グラウンドゴルフ大会の様子》

【再配当事業】文化施設運営事業（にぎわいスポーツ文化局）

ボッシュホールのネーミングライツ料を活用し、ボッシュホールとも連携した伝統芸能イベントや、海外のプロ楽団によるコンサート等の開催など、ボッシュホールを中心とした文化振興・賑わい創出等を進めます。

17 都筑区民まつり支援・地域の賑わいづくり事業	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	420 万円	454 万円	△34 万円

区制 30 周年事業で培われた機運を活かして笑顔にあふれ活気ある都筑区民まつりの開催を支援することで、地域の賑わいづくりとふるさと意識の向上を図ります。また、地域の活力向上及び地域コミュニティの核として重要な役割を担っている商店街（区商連加盟店舗等）と連携して、魅力を発信することにより、街全体の活性化を目指します。

1 都筑区民まつり支援事業

区民の皆様に地域に対する愛着やふるさと意識を醸成していただけるよう、都筑区ふるさとづくり委員会とともに、「第 31 回都筑区民まつり」を 11 月 3 日（祝・月）に都筑区総合庁舎及びセンター南駅周辺で開催します。



《第 30 回都筑区民まつり》

2 商店街の魅力発信事業

都筑区商店街連合会とともに、商店街の魅力を効果的に発信する事業を進めます。

商店街の存在を周知するため、イベント支援のほか、区連会と連携して地域や商店街の夏祭り等で配布するうちわを作成しました。あわせて、動画等を活用した PR により、地域の居場所となる商店街の賑わいづくりを支援します。



《仲町台・中川 乾杯フェスタ
(7月 15・16 日実施)》



《区商連と連携して
製作した加入促進
うちわ》



《4 商店街を巡るバスツアー》

18 多様性にあふれるまちづくり推進事業 (DEI 推進事業)	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	590万9千円	687万9千円	△97万円

国籍や障害によらず、誰もが地域の一員として、自分らしく暮らし、活動できるまちづくりを推進します。都筑多文化・青少年交流プラザ（つづきMYプラザ）による在住外国人に寄り添った日本語学習・生活支援や、国際交流を通じた多文化理解の促進に加えて、ドイツクリスマスマーケットや DEI*スポーツの取り組みを実施することで、子どもたちが地域に愛着を持ち、活躍できるよう支援します。

*DEI : Diversity (多様性)、Equity (公平性)、Inclusion (包括性) の3つを合わせた言葉です。国籍や障害の有無にかかわらず、多様な人が、公平な機会のもと、違いに尊重しあい、力を発揮できる環境を実現するという概念です。

1 在住外国人支援・国際交流事業

言語の壁が原因で学習に課題を抱える子どもたちに対し、学校と連携した学習支援及び相談の居場所を提供します。また、学習支援だけでなく日頃の学習成果を発表する機会を作ります。

子育て支援センターポポラや NPO 団体に加えて、令和6年度に協定を締結したノースポート・モールとも連携し、DEI の考えを区民に広く周知するため、多様な人が、公平な機会のもと、ともに楽しめる「DE&I FESTIVAL」を開催します。さらに、7年度から外国人に対する防災啓発に向けた取組を本格的に実施します。

8月に横浜にて第9回アフリカ開発会議が開催されたことから、アフリカとの次世代の交流に対する気運が高まっています。そのため、ボツワナ共和国との交流を継続し、子どもたちの多文化理解及びグローバル教育の推進を図ります。

【在住外国人支援】

- ・外国につながる子どものための教育相談、日本語教室、学習補修教室（通年）
- ・日本語ボランティア連絡会の実施（月1回）、養成講座の実施



《外国につながる子どもの
学習支援の様子》



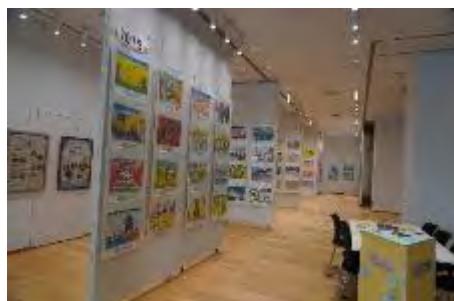
《日本語学習発表会の様子》

【都筑・ボツワナ交流事業】

- ・茅ヶ崎小学校3年生児童に向けたボツワナ国際理解教室（6月20日）
- ・ボツワナ共和国のベン・テーマ小学校児童画アーカイブ展
(6月～8月：ボッシュホール、区内地区センター、コミュニティハウス、
TICAD9テーマ別イベント（パシフィコ横浜）)
- ・都筑・ボツワナ交流児童画展
(12月18日～25日：区民ホール、令和8年2月：JICA横浜)



《『駐日ボツワナ大使館による国際理解教室の様子』》



《『ベン・テーマ小学校児童画アーカイブ展の様子（ボッシュホール）』》



《『TICADテーマ別イベントの様子（パシフィコ横浜）』》



《『第11回都筑・ボツワナ交流児童画展の様子（区民ホール）』》

【多文化共生事業】

- ・外国人向け防災講座（9月14日）
- ・DE&I FESTIVALの開催（10月5日）



『DE&I FESTIVAL の様子』

2 都筑・ドイツ交流イベント事業

在住ドイツ人の多い都筑区で日独の相互理解・交流の促進及び多文化共生社会の推進を目的に、地元商業振興会や自治会町内会、東京横浜独逸学園、ドイツ企業等と連携し、センター北駅前の芝生広場を会場に「ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2025」を開催します。（12月6日、7日開催）



『ドイツクリスマスマーケット in 都筑 2024』

3 都筑D E I スポーツ事業

多くの人が親しみを持ちやすいスポーツを通じて、地域全体の DEI への理解を推進します。地域で開催する行事やスポーツイベント等において、どなたでも参加できるスポーツ種目があることを目指します。7年度は、地域でのスポーツイベント等において中心的に活躍している青少年指導員、スポーツ推進委員、陸上競技協会等を対象に研修会を行い、理解を深めるとともに、障害児・者、外国につながる方を含めたすべての区民が気軽に参加でき、地域の方が実践できるようなスポーツを考案します。

インクルーシブな まちづくり 講演会：9月2日、ボッシュホール



《DEI スポーツ研修会》

【再配当事業】外国人材受入・共生推進事業（国際局）

地域の外国人支援及び国際交流の拠点として、多言語での情報提供や相談対応、日本語教室、日本人と外国人の交流事業などを実施する国際交流ラウンジを運営します。

19 メイドインつづき推進事業	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	380 万円	361 万円	19 万円

都筑区の特色である「製造業の集積」、「豊かな農環境」を活かし、区内製造業の持つ高度なものづくり技術や独創的な製品、新鮮な都筑野菜などの「メイドインつづき」をPRすることにより、販路開拓や地産地消につながる支援を実施するとともに、PRを通して「都筑愛」の醸成につなげます。

1 メイドインつづき PR イベント

「環境にやさしいまち推進事業」と連携し、「メイドインつづき（中小製造業支援、地産地消の推進）」の PR 及びプラ資源分別拡大をはじめとする身近な行動変容を促すことにより、GREEN×EXPO 2027 で目指すカーボンニュートラルの実現に向けた意識・行動変容の啓発を目的としたイベント「eco チャレ 2025～知って・学んで・続けよう、環境にやさしいこと～」を都筑区役所、都筑中央公園及び港北 TOKYU S. C. で開催します。(11月 29日)



« eco チャレ 2024 の様子 »

2 中小製造業支援

(1) 販路開拓・企業間連携支援

県下最大級の工業技術見本市「テクニカルショウヨコハマ 2026」（令和8年2月4日～6日）に「メイドインつづき」ブースを出展し、参加企業の技術・製品をPRします。

また、販路開拓や人材確保等の観点から、参加企業の販促・広報用ツールを作成し、展示会や各種催事で活用します。



« テクニカルショウヨコハマ 2025 の様子 »

(2) 地域貢献活動支援

都筑区役所での小学生向け廃材配布イベントの開催（8月4日・参加者約150人）や、区内商業施設でのイベント及び区内大学文化祭への出展など、メイドインつづき参加企業の地域貢献活動について、企業紹介冊子等を使用した広報支援等を行います。



« 廃材配布イベントの様子（7年度） »



« 東京都市大学横浜祭の様子（6年度） »

3 地産地消の推進

市内有数の農地面積、農家戸数を誇る都筑区ならではの特徴を生かし、「新鮮な野菜が手に入りやすいまち」を目指すことにより、区民一人ひとりのウェルビーイングにつなげます。

7年度は、都筑野菜朝市（概ね月4回）の開催のほか、小学校と連携した地産地消の啓発などに引き続き取り組みます。また、JA横浜・区内商業施設との連携により、規格外野菜の販売等のSDGsに寄与するマルシェイベントを開催し、都筑野菜を含む新鮮な野菜を手に入れる機会の拡大を図ります。（9月7日@ノース・ポートモール、11月9日@港北TOKYU S.C.、11月29日@都筑区庁舎（予定）

さらに、都筑区の「農」の魅力を区内外へ広く発信するための効果的な広報手法等について検討するため、関係者へのヒアリングやアンケート調査を行います。



《マルシェイベントの様子》



《規格外野菜の販売》

【再配当事業】ものづくり魅力発信事業（経済局）

中小製造業の販路開拓とともに、ものづくりの魅力発信を推進するため、テクニカルショウヨコハマにおけるメイドインつづきのPRや区の垣根を越えた企業間連携などを支援します。

【再配当事業】身近に農を感じる地産地消の推進事業（みどり環境局）

農畜産物直売所の整備等を支援するとともに、市内で生産される苗木や花苗の配布、地産地消に関わる情報の発信など、身近に農を感じる取組を推進します。

施策4 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

20 環境にやさしいまち推進事業 拡充	R7予算額	R6予算額	増△減
	171万5千円	117万円	54万5千円

環境にやさしい身近な取組の普及啓発等を通じて、区民に脱炭素化への行動変容を促すとともに、循環型社会に向けてプラスチック対策や食品ロスの削減などを進め、区民一人ひとりが温暖化対策の重要性を認識し、自然と環境にやさしい行動をとるライフスタイルの定着につなげます。地球温暖化を始めとする環境問題への対策について区民へのPRを進めるとともに、地球環境に優しい生活の普及啓発を推進します。

また、きれいな街づくりのため、地域清掃活動の支援、不法投棄防止対応、3Rの普及啓発、「ヨコハマ プラ5.3計画」の推進などの取組を積極的に進めます。

1 脱炭素化の推進

メイドインつづき推進事業と連携し、「**プラ資源分別拡大をはじめとする身近な行動変容を促すこと**により、GREEN×EXPO 2027 で目指すカーボンニュートラルの実現に向けた意識・行動変容の啓発及び「メイドインつづき（中小製造業支援、地産地消の推進）」のPRを目的としたイベント「ecoチャレ 2025～知って・学んで・続けよう、環境にやさしいこと～」を都筑区役所、都筑中央公園及び港北 TOKYU S.C. で開催します。（11月29日）

また、区庁舎に設置されている、窓際でつる性の植物をカーテンのように育て日光を遮る緑のカーテンの維持管理を行うとともに、区内公立小中学校（12校）を対象に緑のカーテンの設置支援を行いました（～8月）。



《ecoチャレ 2024 の様子》



《つづきの丘小学校での様子（6年度）》



2 クリーン推進事業

きれいな街を推進するため、自治会町内会等が実施する地域清掃の支援、駅周辺のポイ捨て防止啓発、農業専用地区等の不法投棄防止対策の支援を行います。



《東京都市大学の学生との清掃活動》



《農業専用地区一斉清掃》

3 3R推進事業【拡充】

つづき 3R週間イベント（6月21日・11月29日）をはじめとする各種イベントや、赤ちゃん会などにおける啓発活動、啓発用ノベルティグッズの製作・配付や地域情報紙による啓発など、様々な機会を活用して3R行動を推進します。そのほか、「都筑区の子どもの読書活動支援」を目的とした市民団体と協働し、区民の皆様から読まなくなつた本を回収し、区内の小学校へ配付します。

また、資源循環局と連携してフードドライブを実施し、都筑区社会福祉協議会による「食のお渡し会」へ食品を寄贈するなど、食品ロス削減につながる取組を進めます。

さらに、4月から全市で実施されたプラスチックごみの分別・リサイクル拡大や、新たなグリーン社会を目指すGREEN×EXPO 2027の開催PRを通じ、CO2排出削減による脱炭素社会の実現に向けて、意識変容・行動変容に結び付ける啓発を行います。



《プラスチックごみ分別拡大に関する説明会の様子》

《食のお渡し会（区社協）の様子》

【再配当事業】 身近な公共施設・公有地での緑の創出・育成事業、保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成事業（みどり環境局）

横浜みどりアップ計画の一環として公共施設・公有地等において、敷地内の緑化及び緑地の維持管理を支援します。

21 みんなで花と緑のまちづくり事業 拡充	R7 予算額	R6 予算額	増△減
	431万5千円	383万1千円	48万4千円

緑地や農地が多く、花や緑を身近に感じられる都筑区において、より一層、花と緑にあふれるまちを目指すため、公園や緑道などを維持管理するボランティア団体・個人の活動支援に取り組むとともに、豊かな環境資源の発信を通して、区民満足度や定住化の持続、ひいては Well-Being (ウェル・ビーイング) なまちを目指します。

また、身近な自然に親しむことを通じて GREEN×EXPO 2027 の機運醸成につなげられるよう、地域との協働による PR を新たに行います。

1 身近な花と緑を通じた GREEN×EXPO 2027 の機運醸成【拡充】

区制 30 周年を記念に区民の憩いの場として整備したつづき彩りガーデンを区内の緑化活動団体と協力して管理するとともに、7月27日に GREEN×EXPO 2027 開幕 600 日前を迎えたことを節目とし、植物と土の中の微生物が放出する電子を利用して発電するライトを導入しました。(7月24日)

また、身近な都筑区の花や緑、緑の多様な機能の発信を通じて、5つの Village 等 GREEN×EXPO 2027 のコンテンツへの興味関心や、開催都市としての期待感、高揚感の醸成につなげられるよう、開催 500 日前イベントの開催（10月26日）や、区庁舎ガーデンにおけるプロモーション、頒布品の庁内全体での配布等を通じて、より一層の機運醸成を行います。（通年）



《植物発電ライト》



《区民団体による管理》

2 「早渕川・老馬谷ガーデン (HRG)」の維持・管理

地域及び東京都市大学と連携し、早渕川沿いの緑の拠点である HRG の維持・管理に引き続き取り組み、区民の花や緑を大切にする心を醸成するとともに、身近な自然に親しむ機会から GREEN×EXPO 2027 への興味関心につなげられるよう、地域との協働によるプロモーションを行います。（通年）

また、HRG で開催したネモフィラ祭（4月12日・地域主催）で、GREEN×EXPO 2027 の PR を行いました。



《地域と大学生による手入れ》



《ネモフィラ祭の様子》



3 「都筑区水と緑の散策マップ」の活用

都筑区の貴重な水と緑の環境資源や歴史ある寺社などを巡る散策コースを計 15 コース収録した「都筑区水と緑の散策マップ」を、区ホームページへ掲載するとともに区役所 1 階売店等で販売（400 円）し、都筑区の環境資源の魅力を区民に PR します。



4 みどりとみちのパートナーの推進

身近な道路や公園等を清掃、維持管理するボランティア団体（ハマロード・サポーター、公園愛護会、水辺愛護会）や個人に対して花苗や清掃用具等を提供します。

また、パネル展（7月 2 日から 8 日まで）等での活動紹介や担い手を増やすための広報を行い活動の活性化を図るとともに、日頃からの活動により一年を通して GREEN×EXPO 2027 の機運醸成を行います。

団体数：208 団体（ハマロード・サポーター 52 団体、公園愛護会 153 団体
水辺愛護会 3 団体）※令和 7 年 8 月現在



《パネル展》



《江川せせらぎ緑道のチューリップと桜》



《ハマロード・サポーター》

【再配当事業】GREEN×EXPO 広報・推進活動事業（脱炭素・GREEN×EXPO 推進局）

GREEN×EXPO 2027 の開催まで 500 日前、1 年前となる令和 7 年度は、会場整備の進展や、出展内容の具体化、開催に向けたさらなる機運醸成等、あらゆる取組を本格化させていく 1 年となります。都筑区でも、局と協力して、来場につながる取組を進め、新たな価値観や行動変容をもたらすきっかけとなることを目指すとともに、花やみどりの日常管理等を通じて、GREEN×EXPO 2027 を身近に感じられるよう、区内の緑化活動団体と連携したプロモーションを行います。

【再配当事業】<横浜みどりアップ計画>地域に根差した緑や花の楽しみづくり事業、子どもを育む空間での緑の創出・育成事業 (みどり環境局)

市民、企業、団体など様々な主体と連携し、全市を挙げて「ガーデンネックレス横浜」を実施し、全市・地域で花と緑による街の魅力創出を進めます。都筑区では、「つづき みどりと花の名所 25 選」を巡るウォーキングの実施、区庁舎ガーデンや江川せせらぎ緑道、センター南広場、センター北広場での緑や花による場所づくりのほか、次世代を担う子どもたちが緑と親しめるよう保育園、小中学校でも芝生や花を楽しめる取組を進めます。

【再配当事業】ハマロード・サポーター事業 (道路局)

自治会町内会、企業等のハマロード・サポーター各団体による市道の清掃、美化活動を支援するため、清掃用具の提供等により活動を支援します。

【再配当事業】公園愛護会活動等支援事業 (みどり環境局)

公園の清掃等の日常管理や花壇づくり、利用者のマナー啓発等を行う、地域住民で組織する公園愛護会活動を支援するため、活動面積に応じた報償費等により活動を支援します。



※都筑区のマスコットキャラクター「つづき あい」
第4期都筑区地域福祉保健計画推進・啓発バージョン

令和8年度都筑区個性ある区づくり推進費 予算編成の考え方について（案）

令和8年度個性ある区づくり推進費自主企画事業費の予算編成に当たり、次の考え方に基づいて取り組みます。

- 都筑区では、「財政ビジョン」、「中期計画」、「行政運営の基本方針」によって示されている中長期的な市政の方向性を基軸とし、区民の皆様をはじめ、自治会町内会や各種団体、企業、大学など、多くの皆様の声を丁寧にお聴きし、区民の皆様に喜んでいただける独自の取組を推進していきます。
- 「切れ目のない子育て支援策」や「誰もが安心して暮らせる高齢者・インクルーシブ施策」、「にぎわい・活力ある地域やまちづくり」、「グリーン社会の実現に向けた取組」、「命と暮らしを守る災害対策、防犯・交通安全施策」等について、DEI（多様性、公平性、包括性）の視点も入れながら、区内の各地域の様々な課題やニーズに迅速かつ、きめ細かく対応するための予算が自主企画事業費であるという認識のもと、区として行うべき取組を推進します。
- とりわけ、令和8年度末（2027.3.19）にGREEN×EXPO 2027が、開幕することを強く意識し、それに向け、より一層の機運醸成や来場意向を高めるための取組を、都筑区の豊かな自然や活発な環境活動などを活かしながら、多くの関係者と連携して進めます。
- 限られた資源の中で、時代の変化や多様化・複雑化する課題に対応し、区民の満足度を高めていくために、多様な主体との協働・共創やデジタル技術の活用に取り組みます。また、様々な機会を通じて現場に出向き、地域の皆様と思いを共有し、寄り添いながら一緒に考えることで、多くの皆様が生き生きと活躍できる環境づくりを進めます。
- 検討に当たっては、これまでの事業評価の結果を着実に反映するとともに、歳出改革を徹底するため「スクラップ＆ビルト」に取り組むほか、「デジタルプラットフォームによる施策への反映」や「子ども基本法の趣旨を踏まえた子ども自身が直接意見を表明できる機会の確保」にもしっかりと対応します。
- 区民の皆様のニーズにしっかりと応えられる区民満足度の高い施策を実施するために、E B P M (Evidence-based Policy Making : 根拠に基づく施策立案) の観点から市民意識調査や区民意識調査、事業に関するアンケートなど各種データの活用をさらに進めます。
また、「各事業が区民の皆様にどのような効果をもたらすか」という視点で、客観的で測定可能なアウトカム指標を検討します。

これらの取組により、「つながり」「活力と魅力」「安心」を実感できるまち、ふるさと都筑」を実現していきます。

【施策の柱】

都筑区運営方針で掲げた「4つの施策」を柱とし、令和8年度予算編成を進めます。

ア 子育て世代をはじめ、あらゆる世代が住み続けたいと思えるまち

誰もが安心して子育てできる環境づくりに引き続き取り組むとともに、就学後の子どもが安心して過ごせる場や仕組みづくりを子どもの意見を踏まえて進めます。また、第5期地域福祉保健計画の推進や農福連携の取組などを通じて、誰もが自分らしく暮らすことができ、住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。さらに、地域運営の活性化に向け、自治会町内会の活動支援や各種の地域活動団体の連携強化を推進します。

イ 誰もが安全・安心に暮らせるまち

震災や風水害への備えとして、各種訓練や関係団体の連携強化など、自助・共助の取組を支援し、地域防災力の向上を図るとともに、新たな「横浜市地震防災戦略」に基づき、誰もが安心して避難生活を送れるよう、地域のニーズに応じた地域防災拠点の環境整備を推進します。

また、地域の防犯意識向上に向けた取組をさらに推進するとともに、自転車交通ルールの罰則強化等を踏まえ、引き続き生活に身近な交通安全の啓発を推進します。

ウ 活力とにぎわい、魅力あふれるまち

様々な地域活動団体との協働・共創により、まちの魅力を活かした活気あふれるまちづくりを進めます。多様な文化・芸術活動の振興や、古くから続く伝統芸能等の普及や継承、多文化共生の取組を進めます。また、活発なスポーツ活動の推進や体験機会の創出に取り組みます。さらに、商店街やものづくり企業、区内農家等と連携し、区の特色を活かしたまちづくりを推進します。

エ 花と緑にあふれ、豊かな環境を育むまち

区民の皆様に、2027年3月開幕の「GREEN×EXPO 2027」に関心を持っていただき、来場していただけるよう、まちなかで GREEN×EXPO 2027 に触れる機会の創出や、来場につながる具体的な情報を発信していきます。また、引き続きプラスチック資源をはじめとする資源とごみの分別啓発や、脱炭素行動の実践を促すイベント等の開催を通して、グリーン社会の実現を目指します。



GREEN×EXPO 2027 の機運醸成の取組について

GREEN×EXPO 2027 の機運醸成を図るため、令和7年度はより一層の認知度の向上を目指し、まちなかで GREEN×EXPO 2027 に触れられる機会の創出や、都筑区の大きな魅力である身近な花や緑、そして、その自然を守り育てる日頃からの活動を通じて、GREEN×EXPO 2027 に関心を持っていただけ取組、脱炭素・GREEN×EXPO 推進局と連携した会場コンテンツの紹介等のプロモーションを強化します。

更に、GREEN×EXPO 2027 で目指すグリーン社会の実現に向けた区民一人ひとりの脱炭素行動を促進していきます。

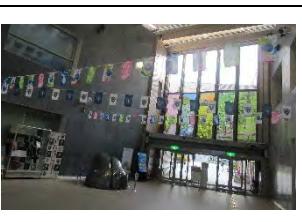
1 令和7年度実施済の取組

(1) 各種イベントによる広報

取組名	時期	取組内容	
センター南春まつりでのPR	4月27日 (土)	会場内でマスコットバルーンやパネル等を活用したPRを実施しました。	
都筑中央公園と連携したPR	随時	5月11日（日）に開催されたバラまつりの会場内で、エアチューブやパネル等を活用したPRを実施しました。また、NPO法人都筑里山俱楽部様の御協力により、都筑中央公園内で開催されるイベントにて、継続的にグッズやちらしの配布を行っています。	
第18回まち巡りでのPR	5月25日 (日)	GREEN×EXPO 2027の概要や「SATOHAMA Village」と連動した企画を展開し、新治市民の森の散策等を通じて参加者の理解促進と関心の喚起に努めました。	

つづき 3R 週間での PR	6月 19 日 (木) ~ 25 日 (水)	ブースを全面的にラッピングした他、参加者にサンバイザーやシードペーパーを配布しました。	
都筑区連合町内会自治会との連携による開催機運の醸成	6月 20 日 (金)	都筑区連合町内会長・自治会長の皆様に「Blooming RING」を着用いただき、開催に向けた機運醸成を図りました。	
愛護のつどい、パネル展でのPR	7月 2 日 (水) ~ 8 日 (火)	会場内でマスコットバルーンやパネル等を活用したPRを実施しました。	
食中毒予防キャンペーンでのPR	7月 30 日 (水)	パフォーマンスステージでのぼりを活用したPRを実施しました。	
各種撮影時のバックパネルによるPR	通年	GREEN×EXPO 2027デザインのバックパネルを写真撮影等に使用し、継続してPRを行っています。	
チームつづきによる PR	通年	都筑区をより良くするため、都筑区役所職員による活動を行うチームつづき（改革推進委員会）にGREEN×EXPO 2027のPRをテーマとするグループを立ち上げました。若手職員ならではの発案によりGREEN×EXPO 2027の魅力を発信します。	

(2) 庁舎内外での PR

取組名	時期	取組内容	
「B-COR i ビジョン」での動画放映	通年	市政、区政の重要な情報の発信を目的として昨年度区民ホールに設置された「BCOR i ビジョン」で、GREEN×EXPO 2027の動画を放映し、機運醸成の場として活用しています。	
区庁舎入口でのPR	5月～	区庁舎入口にポスターとのぼりを掲出しました。	
災害備蓄食保管自動販売機でのPR	6月～	区民ホールに設置されている災害備蓄食保管自動販売機にGREEN×EXPO 2027のデザインシールを貼付しました。	
図書館前防火戸のラッピング	7月～	都筑区総合庁舎1階図書館前の防火戸にGREEN×EXPO 2027のデザインシールを貼付しました。	
区民ホールへの連続旗の掲出	8月～	区民ホールに連続旗を掲出しました。	

(3) 区内大学・商業施設と連携した機運醸成の取組

取組名	時期	取組内容	
ボッッシュ ホール全天候型広場 大型モニターを活用したPR	通年	ボッッシュ ホール屋外の「プラット（全天候型広場）」大型モニターにて、引き続き広報動画を放映しています。	
東京都市大学学生とのクリーン活動でのPR	6月18日 (水)	地域振興課資源化推進担当と資源循環局都筑事務所、東京都市大学学生の三者で実施するクリーン活動時にのぼりを掲出しました。	
区内商業施設のサイネージを活用したPR	7月～	港北TOKYU S.C.とノースポート・モール内のサイネージにて、広報動画を放映しています。	
東京都市大学の学食モニターや校内サイネージを活用したPR	7月～	東京都市大学横浜キャンパス内の学食のモニターやサイネージにて、広報動画を放映しています。	

(4) つづき彩りガーデンを活用した機運醸成の取組

取組名	時期	取組内容
植物発電ライトの設置	7月24日 (木)	<p>GREEN×EXPO 2027 が目指す環境と共生する未来のグリーン社会の実現に向けた取組として、植物の力で発電するライトをつづき彩りガーデンに設置しました。</p> <p>これにより、脱炭素社会への貢献を図るとともに、区民の脱炭素意識の向上を促進しました。設置にあたっては、同ガーデンの管理に協力いただいている緑化活動団体の皆様にも参加いただきました。</p>   

2 今後実施予定の取組

引き続き、身近な花や緑や日頃の環境活動を通じた機運醸成、5つの Village など GREEN×EXPO 2027 の会場コンテンツへの興味関心の促進、更には、グリーン社会の実現に向けた行動変容などにつながるような取組を進めていきます。あわせて、更なる認知度の向上を目指し、人の往来が活発なエリアでの広報を展開します。

取組名	時期(予定)	取組内容	
開催 500 日前イベントの実施	10月26日 (日)	都筑区内の農専地区をめぐり、GREEN×EXPO 2027 の会場に展開される「Farm&Food Village」を体感していただくイベントを実施します。	
区内地下鉄駅構内の広告掲出	秋頃	開催 500 日前のタイミングにあわせ、区内地下鉄駅構内に広告を掲出します。	 ※写真はイメージです。
区内歩道橋への横断幕の掲出	秋頃	区内の歩道橋に横断幕を掲出します。	 ※写真はイメージです。
地域の緑化活動団体と協働したプロモーション	随時	花やみどりを通じて、GREEN×EXPO 2027 を身近に感じられるよう、区内の緑化活動団体と連携したプロモーションを行います。また、開催 500 日前には応援イベントを開催し、地域との協働により開催 500 日前を盛り上げます。	
Blooming RING を活用した PR	11月3日 (月)	都筑区民まつりにて、Blooming RING を活用した親子向けのプロモーションを行います。なおプロモーションの内容はチームつづき(都筑区改革推進委員会)で検討を行います。	
各種イベントでの PR	随時	区民ホールでのイベントや区民まつり、その他区内で開催される大規模イベントで広報活動を実施します。	
eco チャレ 2025 での PR	11月29日 (土)	カーボンニュートラルの実現に向けた意識・行動変容の啓発を目的とした子ども向けイベントである「eco チャレ 2025」と連携した広報活動を実施します。	

